令和２年　第８回

教育委員会定例会会議録

令和２年８月４日（火）

港区教育委員会

港区教育委員会会議録

第２５４９号
令和２年第８回定例会

日　時　令和２年８月４日（火）　午前９時３０分　開会
場　所　港区役所９階　９１１－９１３会議室

「出席者」	教　育　長	浦　田　幹　男
	教育長職務代理者	田　谷　克　裕
	委　　員	山　内　慶　太
	委　　員	中　村　　博
「欠席委員」	委　　員	寺　原　真希子
「説明のため出席した事務局職員」	教育推進部長	星　川　邦　昭
	学校教育部長	湯　川　康　生
	教育長室長	村　山　正　一
	図書文化財課長	江　村　信　行
	学　務　課　長	佐々木　貴　浩
	教育人事企画課長	瀧　島　啓　司
	教育指導担当課長	篠　﨑　玲　子
「書　記」	教育総務係長	佐　京　良　江
	教育総務係	田　邊　　真

「議題等」
日程第１　審議事項
　１　令和３年度区立中学校使用教科書の採択について
　２　令和３年度区立小学校特別支援学級で使用する教科用図書（一般図書）の採択について
　３　令和３年度区立中学校特別支援学級で使用する教科用図書（一般図書）の採択について
日程第２　報告事項
　１　令和２年度第２回採用港区奨学生の選考結果について
　２　令和２年度第１回港区教育委員会いじめ問題対策会議の報告について

「開会」

○教育長　ただいまから令和２年第８回港区教育委員会定例会を開会いたします。

本日は、教育委員の寺原委員が所用のため欠席との連絡を受けていますので、ご承知おきください。

今回の定例会には傍聴者が多数いらっしゃっておりますが、会議に先立ちまして皆様にお願いをいたします。事前にお配りしました資料の注意事項をお読みになり、会議においては発言などをなさいませんよう、ご協力の程よろしくお願いを申し上げます。

（午前９時３０分）

「会議録署名委員」

○教育長　それでは早速、日程に入ります。

本日の署名委員は、中村委員にお願いをいたします。

○中村委員　分かりました。

日程第１　審議事項

１　令和３年度区立中学校使用教科書の採択について

○教育長　日程第１、審議事項に入ります。議案第８４号「令和３年度区立中学校使用教科書の採択について」審議を行います。

令和３年度区立中学校使用教科書の採択につきましては、区の教科書選定研究委員会から提出されました教科書選定研究資料や各中学校から提出をされました教科書研究資料、令和２年６月１２日金曜日から７月１５日水曜日までの間、港区立教育センター、港区立みなと図書館の２か所で行った教科用図書展示会にいらっしゃいました６２名からのご意見を踏まえまして、選定作業を行ってまいりました。

また、港区の教科書採択に関する請願書も出されており、これらの意見及び資料を踏まえ、港区教育委員会においては、子どもにとって分かりやすく、教員にとって指導しやすい教科書を採択してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、最初に国語の教科書についてご意見を伺います。今回の学習指導要領の改訂では、言語活動を通して国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目標に、語彙指導や情報の扱い方に関する指導、学習過程の明確化、考えの形成の重視、言語文化に関する指導や読書指導の充実などの面で学習内容の改善、充実を図っています。

こうした学習指導要領の改訂を踏まえて、どなたかご意見はございましょうか。

○田谷委員　それでは、発言させていただきます。

国語に関しましては、どの教科書も学習指導要領の改訂を受けた工夫をしていると思いますが、読むことについては、文学的な文章と説明的な文章、詩、俳句などの作品数が多いのは教育出版でございました。それから、書くことについて単元を多く取り入れられているのが東京書籍と光村図

書ではないかと思います。また、話すこと、聞くことでは、教材の数では光村図書がほかの教科書に比べて充実しているのではないかというふうに感じております。

○教育長　今、田谷委員からは、各社がどの領域に力を入れているかという視点からご意見をいただきました。

　そのほかはいがかでしょうか。

○山内委員　読書指導に関してはどの出版社もかなり力を入れているなという印象があります。やはり読む力をつけるという意味では、読書をより積極的に、しかもより深くするということが大事で、その糸口になるような教材というのがよいというふうに思いました。例えば東京書籍なども色々な形で本が紹介されていて、そういうコーナーを用意している。そういうのは、生徒が読書に興味を持つという一つの入り口としてはいいのかなというふうに思って読みました。

○教育長　ありがとうございます。

　それぞれの視点から、教科書の特色として際立った点についてご意見を出していただくのがいいかと思いますが、いかがでしょうか。

○田谷委員　選定資料をいただいているのですけれども、この選定資料にもありますように、三省堂は単元の終わりに「語彙を豊かに」というコーナーが設けられており、語彙を広げられるようになっております。語彙指導については、どの教科書でも取り上げられているところではありますが、言葉の学習であることが一目で分かるところはよいところだと思っております。ほかにも、光村図書や東京書籍も、各単元の終わりに語彙について着目する問題が設定されたり、語彙指導の改善、充実を目指していることが分かります。

○教育長　ありがとうございました。

　ほかにいかがでしょうか。

○中村委員　中村の方から発言させていただきます。

　学習指導要領の改訂の一つとして、自分の考えを形成する学習過程を重視しましょうということが挙げられております。その点、光村図書を見てみますと、２年生の１９６ページの『走れメロス』という文学的な文章教材の中で、学習活動や目標を確認してから文章の全体構成を捉え、場面の展開に則して人物像を読み進めていくという学習の流れが視覚的に示されています。また、教材の中で、何を中心に学べばいいのかというポイントが視覚的に端的にまとめられている「学習の窓」というコーナーが設けられております。生徒は、どのように読み深めていけばよいのかということを知った上で、より深く読み進められるような工夫がされていると思います。さらに、読み深めたことを基に自分の考えをまとめるという学習の流れになっており、生徒が主体的に学習を進め、自分の考えを形成していくことができるようになっている点は評価できると思います。

○教育長　ありがとうございます。

　ほかはいかがでしょうか。

○山内委員　今、ご指摘の点について言えば、東京書籍なども同様に手引きの中で言葉の力に関してのコーナーがあり、どういうところに注目すればよいかということも比較的分かりやすく記され

ているという印象があります。

また、光村図書も「学習の窓」というようなコーナーがあって、そこで文章の読み取り方についても記されている。国語の教育の場合には、従来からの文学的な文章をどう読むかということと、説明的な文章をどう読みとるかということになりますけれども、その文学的な文章をどう読み込むかということについても比較的丁寧に解説がなされているというふうに思います。

○教育長　ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員　今、ご指摘されました学習の進め方という視点では、教育出版も良いかと思います。単元の最初に見開き２ページで「学びナビ」が設けられていて、どのように読み進めればいいのか、読み深めればよいのかということが示されています。見通しを持って学習に取り組めるという利点では良いのではないかと思っております。

また、主体的な学びや発展的な学習に活用できるデジタルコンテンツを特に今回の教科書は各社で取り扱っていらっしゃいます。その中でも光村図書は、これは私も拝見したのですが、デジタルコンテンツごとにＱＲコードがついていて、ＱＲコードを読み取れば必用とするデジタルコンテンツをすぐに取り出せるという工夫がされています。今後におきましては１人１台のタブレットを配置する予定ですので、自学自習に活用できるデジタルコンテンツは重要な要素ではないかと思っております。

○教育長　ありがとうございます。

そのほかの視点でのご意見はございましょうか。

○中村委員　国語は、文字を読むことが主な学習活動になると思いますので、読みやすさという点からの視点も大事だと思います。その点、行間や改行の仕方など、各社、工夫はしていると思います。

あと、学年や教材の内容に応じたフォントも使用していますけれども、教育出版や東京書籍などは、教材文の各行にドットを配した上で５飛びの数を示していますので、行数が非常に目で追いやすくなっております。読み障害のある生徒は行を目で追って読んでいくことに困難を覚えることがございますので、そのような生徒には有効な支援だと思います。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　ただいま中村先生がおっしゃいました読み障害がある生徒ということがございますが、こういう発達障害のある生徒は様々な情報から必要な情報を選択して認識することに困難さを抱えていることがあります。このような生徒には、掲載された情報がすっきりと整理された紙面である必要があると思います。そのような点から言うと、三省堂は、各単元末に示されている「学習の進め方」が見開き２ページで把握できるようになっていると思います。また、紙面の上段と下段での取り上げる内容を統一し、どこを見れば自分の必要としている情報が手に入れられるのか分かりやすくなっています。同様に、光村図書や東京書籍も上段と下段で情報を整理した上で、上段と下段を使い分ける区分線を入れるなど、紙面の構造化を図っていることはよいことだと思っております。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　国語において書くことというのは、自分の思いとか考えを表現するという点からも大切です。書くことの学習では、どの教科書も工夫をそれなりにしていると思いますが、東京書籍は書くことに関する教材の数が多くて、特に文学的な文章を書く活動が豊富に取り扱われているように思います。光村図書も書くことに関する教材が多く、特に実用的な文章を書く活動が多く取り上げられております。書くことには、情報を集め自分の考えや主張を伝える上で必要となる情報を精査し、効果的に表現するための構成を考えることが大切だと考えます。東京書籍、三省堂、光村図書は、様々な文章の構成や書き方のポイントなどを一覧表でまとめられておりまして、これは活用しやすいのではなないかなと思いました。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　先程は、文学的な文章という点から読み取り方についての説明がどうかということでお話をしましたが、もう一つの説明的な文章とされている本について比較をしました。近年、やはり論理的に文章を読み取る力とか、論理的な文章を書く力ということが特に強く求められるようになってきて、特にグローバル社会になればなるほど、実はそれが言葉の力の中でも重要になってくるかなというふうに思います。今回、どこも旧来の教科書に比べるとそのようなものに力を入れているというふうに思いますけれども、特に光村図書がその部分を分かりやすく丁寧に書いているのではないかなというふうに思います。例えば１年生の教科書なんかでも冒頭で「思考の地図」という形で、いわゆる思考ツールのようなものも示している。それからさらにそれぞれの場所、また巻末などでも「学習の窓」という形で整理をしている。そこは思考ツールにとどまらないで、いわゆる言語技術というものの基本になるような考え方がなされています。そういういわゆる言語技術の教育をきっちりやっていこうという姿勢が見えるのは私は評価してよいのではないかというふうに思いました。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　区内の小中学校では、俳句づくりに取り組んでいるところが大変多いです。俳句をつくる学習には気になる視点でございます。

教育出版は他の出版社に比べて倍以上の数の句が収録され、俳句を書く際の参考になると思います。

三省堂は俳句を取り扱う際に、人気テレビに出演している俳人の夏井いつきさんによる俳句の紹介文が掲載され、生徒が日常的に親しみのない俳句というものに関心を抱くことができるような工夫をされていると思います。やはり最近、テレビや雑誌で見るような方が実際に筆をとられているというのは生徒にとっても親しみやすい観点かなと思っております。

光村図書は四季を感じられる俳句を取り上げた四季のしおりがあり、春夏秋冬の季節感を感じられるような工夫がなされていると思います。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　今、田谷委員の方から出ました俳句づくりといった観点から教科書を見てみますと、

作品の数などに注目して見てみますと、光村図書は各学年で近代作品が２作品、それから現代作品が３作品以上取り上げられており、その分量の割合がちょうどよいように思いました。

また、１年生の「シンシュン」とか、３年生の「人工知能との未来」といった新しい教材文と、魯迅作の『故郷』など、昔から定評のある教材文がバランスよく取り上げられていることもよいなと感じました。こうした様々な作品に触れる中で自分の考えや世界を広げていくということは、本区の生徒にとっては大変有意義なことと考えます。取り上げている作品の内容や、その作品を通して考えを深めていく学習過程が具体的に分かりやすく示されていると考えられる光村図書が港区には適しているのではないかと考えます。

○教育長　ありがとうございます。

いかがでしょうか。各委員の皆様からは、語彙指導の視点、考えの形成の指導についての視点、題材の内容や数、読みやすさ、港区における俳句指導の実態などの観点からご意見をいただきました。また、教科書展示会にお越しいただいた皆様からのアンケートにおいても、光村図書の丁寧なつくり方、分かりやすさについて評価をいただいております。

これまでのご意見から光村図書を推薦する声が多いように思いますけれども、国語につきましては光村図書でよろしいでしょうか。

（異議なし）

○山内委員　よろしいと思いますけれども、せっかくなので、一言追加で申し上げます。

私も、さっき申し上げたように光村図書でいいと思っていますけれども、論理的な言葉の力をつけるという点については、今年、やはり各社が改訂の中で力を入れた部分で、それぞれに工夫がかなりあると思います。ですから、実際に現場の先生方が使うときは、ほかの出版社、採用にならなかった出版社の工夫も、うまくいいところは取り込みながら教育に生かしていく、色々なアイデアの種としてほかの出版社のも使っていただいたらいいのではないのかなというふうに思いましたので、一言申し上げました。

○教育長　ありがとうございました。

今の山内委員のご意見も踏まえまして、教育の現場の方にはお伝えしていきたいと思いますけれども、国語の教科書につきましては光村図書ということで決定をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。

それでは続きまして、書写の教科書についてご意見を伺います。

○田谷委員　書写に関しましても、どの教科書も学習指導要領に示された伝統的な文字文化の継承、社会に役立つ様々な文字文化等の内容を取り上げ、系統的に示していると思います。東京書籍と光村図書は、ほかの出版社と比べ、身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れている項目の数が多いです。具体的には、東京書籍は８８、８９ページに文字文化の歴史から現代の文字との共通項を考える学習を取り上げていたり、光村図書では９６、９７ページに目的に応じて文字を使い分ける必要があることに気付かせる学習が取り上げられたりしております。

○中村委員　東京書籍を見ますと、行書を指導する際のポイントを点と画のつながりを意味する筆

脈を重視した構成になっております。基本となる行書を学んだ後に、その基本の形が構成要素に入っている漢字に応用させる学習の流れになっています。また、書写する際のポイントは「書写のかぎ」という形で教科書に示されておりますので、何に注目して字を書けばよいのか、生徒自身で確認できるようになっているのもいいと思います。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　三省堂を見てみましたが、硬筆で行書を練習できるようなページなども多くある、あるいはどうバランスの崩れた文字を整った文字に書き直すかという視点で、その文字のバランスを考える視点を与えている。そういうこともなかなかよい工夫かなというふうには思います。

一方で、どの出版社もそうなのですけれども、書写が単に文字を書くというだけではなくて、本当はもっと書写を通して古典に親しむというのでしょうか、書くことを通じて古典に親しむということをもっと丁寧に力を入れてやってもいい。どれも断片的にはあるのですけれども、ちょっとそこは今回の書写の教科書の物足りなさとして感じたところです。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　教育出版は、古書などの鑑賞用の写真が大変豊富でございます。特に８０、８１ページには、日本建築と書の関係を取り上げ、和室の床の間に飾られた掛け軸や屏風などが、日常生活と芸術鑑賞の見事な調和について気付かせるようになっています。このことは、先々、高等教育、高校教育の書道Ｉで扱われる内容につながる発展的な学習となっています。これ以外、短冊と色紙や、西本願寺三十六人家集など、高等教育とのつながりを意識した発展的な内容が多く取り上げられています。今回の学習指導要領の改訂では学習の系統性が重視されているので、このような内容が示されているのはよいことだと思います。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　光村図書を見てみましたけれども、光村図書は、教科書の部分と最後に書写の活用ブックという形で、より実用的な部分、二つの組み合わせになっています。まず教科書で学んで、さらに「書写ブック」でさらに実用的な練習をする。そんなこともできるようになっていて、そんな点も一つの工夫だというふうに思いながら読みました。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　文字を日常生活に生かすというような観点から、各社、日常に役立つ書式を資料として掲載して活用できるように工夫しているようです。例えば手紙や封筒の書き方とか、それから入学願書を書くなどというような書式、様々な日常場面で使用する書式について取り上げて、書く場合のポイントについて具体的に示しているようです。特に東京書籍と光村図書は、電子メールの書き方も例に取り上げており、現代の通信ツールを意識した内容になっていて、よいなと思いました。

○教育長　ありがとうございます。

ただいま傍聴の方から写真撮影の申し出が出てございます。港区教育委員会傍聴人規則第４条に基づきまして許可をいたしますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

今、委員の皆様から様々な視点からの各教科書の特徴を挙げていただいておりますけれども、そ

のほかの視点からのご意見はございましょうか。

○山内委員　東京書籍ですけれども、一つは日常の学習を支えるという意味では、それぞれ振り返りの場面で目標が達成できたかということを確認する。それを単にできた、できなかったではなくて、できるだけその理解した内容を活用して表現をする、その自分の字を振り返る、あるいはそれを伝えるという構成になっているということも言語活動の学習では重要だと思います。

それから、さっき古典に親しむという視点で少し批判的に言いましたけれども、その中で言えば、東京書籍はそれぞれのところに「文学の泉」というような形で、古典をできるだけ紹介しようという努力もしている訳で、それはやはり重要なことだと思います。やはり先程、国語で論理的な文章をということを申しましたけれども、他方で書道を通じて、書写を通じて古典に親しむ、体験的に書写に親しむ、古典に親しむという時間をつくるということは重要だと思いますので、その点では東京書籍を評価したいと思います。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　書写にもう一つ必要な点は、筆記具ということがあると思います。どういうときに、どういう筆記具を使うか、筆の太さとか。この点についても東京書籍は、場面や目的に応じて、書体や文字の大きさ、余白や文字間だけでなく、筆記具の種類などを考えるようにさせています。７種類の筆記具を紹介し、場面や目的に応じて使い分けられるように考えています。特に、学校生活ではよく使用する先が四角いフェルトペンの書き方についてポイントが示されていることは、大変よいことではないかと思います。

○教育長　ありがとうございます。

確認ですけれども、国語と書写は教科書会社が違っても大丈夫でしょうか。

○教育指導担当課長　教科書は国語と書写で違っていても問題はございません。

○教育長　ありがとうございます。

今までの委員の皆様からのご意見では、書写の授業の限られた時間数の中で取り扱っている内容や、生徒にとっての分かりやすさ等の点からご意見がありました。その中で、東京書籍を推薦する声が多いようでございます。書写の教科書につきましては東京書籍でよろしいでしょうか。

（異議なし）

○教育長　ありがとうございます。

それでは、書写の教科書につきましては東京書籍に決定をいたします。

それでは次に社会（地理）の教科書についてご意見を伺います。

○田谷委員　学習指導要領には、地理分野の目標として、地域調査など具体的な活動を通して、地理的事象に関する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用することが挙げられています。また、地理的事象を多面的・多角的に考察し、適切に表現する能力や態度を育てることが示してあり、教科書を選択する上で特にこの点が重要なことであるというふうに考えております。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　地理の学習では、単に知識の記憶とか理解ということだけではなくて、地理的な見方

というか、思考力をどう養うかということが重要になると思います。その点では、地図を自分で書きながら分析をし直す、あるいは、様々な時代の地図を比較しながら読むとか、様々な統計資料を基にその地域の特性を実証的、科学的に分析をする、そういう学習活動を充実させるということが非常に重要になってくるし、論理的な思考力を養うということにもつながる。そういう観点からもこの教科書を見ていく必要があるというふうに思います。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　今、山内委員が言われたような視点で考えてみますと、子どもたちが主体的に学ぶことができるような教科書というのが大切になるのかなと思います。問題解決型の学習展開になっているのかどうかという点が大事かなと。そういう点から言うと、まずは学習の流れや狙いの設定などが子どもたちに分かりやすくなっているかどうかというのは重要だと考えます。

○教育長　ありがとうございます。

今、各委員の皆さんからご視点をいただきましたけれども、この視点を踏まえましてご意見をお願いいたします。

○山内委員　そういう意味では、比較的どの教科書も写真、グラフなどを見やすく工夫して取り上げていると思いますけれども、構成で言えば、例えば東京書籍の、学習の課題からまとめに至る流れというのを見やすく、問題解決的な学習の順序を分かりやすく構造的に示していくということは評価できるのではないかと思います。どの教科書もそういう工夫はありますけれども、あえて言えば、そのような傾向が言えると思います。

また、日本文教出版も、学習の課題を基に、どう学習課題の解決に向けて手掛かりとなる見方・考え方をしていけばいいという視点が示されている、補助線が引かれているというのも分かりやすい構成ではないかというふうに思います。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　学習内容をより深めていくには、歴史分野や公民分野との関連を図ることも重要であると思います。帝国書院は、環境や防災、共生に関するコラムが充実しており、公民分野や歴史的分野との関連性が数多く示されています。比較や関連、総合させて事象を捉えることで、社会的な見方・考え方を育成し、多面的、多角的理解につながるというふうに思っています。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　見方や考え方の育成という観点から見ますと、教育出版の各ページに掲載されている地図とかグラフが大きく活用しやすそうに思います。また、「地図を活用しよう」というページがありまして、様々な観点で作成された地図を掲載していて、地理的な見方あるいは考え方を育成するのにはとてもよいと思います。

○教育長　ありがとうございます。

地域的な特色や地域の課題を捉えることに関してはいかがでございましょうか。

○田谷委員　帝国書院は２４０ページで、東京の中心部に集中する様々な機関と題して、地図を示しています。港区に大使館や出版社のビルが多いことが読み取れる点で、港区の子どもたちにとっ

て身近で大変よいと思います。子どもたちの関心を誘う重要なアイテムだと思います。

東京書籍も２３７ページの図に書いてあるように、港区における外国大使館の分布と題して、大使館に特化した地図を示しており、地域の特色をより身近に感じることができると思います。

また、教科書展示会にお越しいただいた方々のアンケートにも記述がありましたが、日本文教出版は、大変直近の話でございますが、高輪ゲートウェイ駅や品川から出発する中央リニア新幹線が取り上げられていて、港区の生徒にとっては社会の変化を身近に感じられる点がよいと思います。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　このような色々な資料から子どもたちが何を学んでいくかということが本当に大切だと思います。いずれも、首都東京と各地の結びつきというようなものが取り扱われておりまして、東京書籍は２３８ページあたりで、朝の通勤時間帯の駅の写真と東京２３区への通勤通学者数、それから東京周辺の地下と鉄道網の資料地図を見開き１ページに掲載されております。それぞれの資料を個別に読み取るだけではなくて、関連づけて統合したりして考えさせることで都市圏の特徴を捉えることができます。社会的な事象を多面的、多角的に捉え考えさせる、学びを深める上で東京書籍は有効であると思います。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　先程のその地域的な特色をどう捉えるかということ、教育長のご質問について言うと、やはりそういうことを学ぶ上では、それぞれの地域の土地の形、地形あるいは地図を読み込む、そういうことも必要になると思うのです。今回の改訂では、そういうこともかなり意識して書かれていました。それから、様々な資料、地図、地形図、グラフなどをどう分析するかということが重要になりますし、あるいは同じ地図にしても、あるいはそれ以外にしても、新旧のもの、昔の地図と今の地図とかをどう対比させていくか、読み解いていくかということも重要になる訳です。各社、そういう資料の読み取り方、読み解き方についての工夫があるように思いました。例えば帝国書院は技能を磨くというコーナーが充実して、具体的な紹介をしていく、また、同じようなコーナーが、東京書籍は「スキル・アップ」というコーナーで、また日本文教出版も「スキルＵＰ」というコーナーで丁寧に解説されている。それは今回、評価してよいと思いました。

本来こういう方法論というのは、教科書になくても授業の中で先生方が自ら伝えていくような内容であると思いますけれども、やはり教科書に丁寧に説明があると、経験の浅い方とかあるいは専門分野が異なる方でもより使いやすい、教えやすいということでよいと思いますし、生徒の好奇心も刺激して主体的な学びが実現しやすいというふうに思います。別の言い方をすれば、地図を見たときに好奇心が自然と刺激されて、生徒自ら昔の地図と比較してみたくなったり、様々な統計資料を見てみたくなったりする。そういう人にどう育ってもらうかということであるし、そういうことがしやすい教科書になっていると思います。

また同時に、様々な資料は好奇心の上にさらに科学的に分析するということの材料でもありますから、その大切さと面白さというのでしょうか、それを理解できる教科書ということ、そういう点で評価できるのではないかというふうに思いました。

○教育長　ありがとうございます。

今、山内委員の方から主体的に学ぶというお話がございましたけれども、主体的・対話的で深い学びを実現するためには、思考力・判断力・表現力の育成が大切だと考えております。思考力・判断力・表現力の育成という観点からはいかがでございましょうか。

○田谷委員　今、教育長がご指摘された三つの力ということでございますが、どの教科書も日本の諸地域について、地域の特色ある事象を他の事象と有機的に関連づけて国土の認識を広げたり深めたりしながら言語活動を充実させる編集となっています。また、各社ともレポート作成の方法が詳しくまとめられています。特に帝国書院は、内容を覚えるだけではなくて、考える作業ができる点で、思考力・判断力・表現力が養われるのではないかと思っております。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　主体的な学び、そういう姿勢をどうつくっていくかということで言うと、やはりそれぞれの単元、節の最後のところでどうそこで学んだことを生かすかという、そこの提示の仕方が重要になると思います。その点で言えば、各社、最後に簡単な知識を確認した上で、それぞれの地域の特色をまとめる、あるいは話し合うというような趣向がありますけれども、その中で比較すると、帝国書院は、学んだことを確かめようという見出しで、地図などに知識を整理するというページがあって、さらに地理的な見方・考え方を働かせて説明しようというページが用意されています。これも学んだことを生徒一人ひとり、あるいはグループで整理して、その上でディスカッションをしていくという際の一つの補助線がうまく引かれているという印象を受けました。冒頭で申し上げたように、単なる知識の暗記の科目にしないで、問題解決的な学習につなげていく、そういう思考につなげていくという意味でも方向づけを比較的うまくしているのではないかなというふうに思いました。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　学んだことを基にして、地理的な見方・考え方を働かせた発展的な学習をしていく構成になっている帝国書院は、特に問題解決的な学習の視点からも評価できると思います。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　私は、全体の構成という観点から見れば東京書籍の方が優れているのではないかなと思いました。課題のページや課題解決の見通し、そして活用する見方・考え方が見開き１ページで分かりやすく掲載されております。東京書籍は、先生方の経験年数を問わず非常に使いやすい構成ではないかなと思います。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　中村先生が言われるように、確かに東京書籍の構成は工夫されています。しかし、写真、グラフ、地図などの見やすさや質の高さ、地理的な見方・考え方が育成できる単元のまとめなど、確かな力をつけるためにはやはり帝国書院が子どもにふさわしいと思います。

○中村委員　子どもたちの目線で考えたとしても、東京書籍の内容や構成であれば、予習、復習など自学自習にも十分対応できると思いますので、子どもたちの使いやすさからすればどれかという

視点は大事であると思いますし、その視点から考えても東京書籍の方がいいのではないかなと思いますが、いかがでしょうか。

○教育長　東京書籍と帝国書院の２社に絞られてきたような状況でございますけれども、山内委員はいかがでしょうか。

○山内委員　どちらも良さがあって、それはお２人の委員のご指摘される、おっしゃるとおりだと思います。そういう中で、地理的な見方というか、あるいは思考力、あるいは主体的な姿勢をどう育むかというときに、その分かりやすさということと、一方で記述の緻密さということも実は重要になってくる。やはり緻密な、そしてそこの中にそういう主体的な思考のために必要な視点での記述、緻密さが必要だと思っています。そういう点で例えば帝国書院は、時期とか歴史的な経緯というのでしょうか、それを丁寧に扱っているというふうに思いました。例えば九州の工業というものを記述しているページがありますけれども、そこでは、江戸時代の筑豊の炭田、そういう江戸時代からの蓄積があって八幡の製鐵所になる、さらにその後、第二次世界大戦の後の北九州の工業地帯の発展、その歴史的な経緯というものが取り上げられています。さらに言えば、鉄鋼業の国際競争が厳しくなって、その後、九州の北部で、例えば自動車の部品、電子部品なんかに転換していったということも書かれています。

一方で東京書籍はそのような記述は十分とは言えない。今回の特色は、帝国書院は、それぞれの地域の産業の特徴をいわゆる産業史の視点を入れて説明しているということだと思います。その方針がしっかりしているというのが、私がそれぞれの地域の記述を読んでの印象です。やはりこの歴史的な見方と地理的な見方というのは、別々のものではなくて、それを融合するということが必要で、その点では、それぞれの地域の産業史の視点がついているということが重要だと思います。

そういう意味で、私は帝国書院を今回は評価したいというふうに思っています。

○教育長　ありがとうございます。

ただいま山内委員の方からは帝国書院というご意見でございましたけれども、ほかの委員、いかがでしょうか。

○中村委員　今、山内委員の方からのご意見を伺ってみて、教科書を実際に見ているのですけれども、確かに帝国書院は地理的な見方・考え方を働かせるまとめや、多角的・多面的に事象を捉えさせる資料は充実しているなと思います。そういう意味では、確かな事実認識を積み重ねて考察・構想していく上で、帝国書院のような構成は効果が期待はできると思います。

そこで一つ確認させていただきたいのですけれども、現場の教員から見てどの教科書が支持されているのか、そこら辺りの情報を教えていただければと思います。

○教育指導担当課長　現場では帝国書院を押す声が多いというふうに報告を受けています。

○教育長　中村委員、いかがでしょうか。

○中村委員　現場の意見等を考え合わすと、帝国書院ということの結論で異議はございません。

○教育長　ありがとうございます。

問題解決的な学習を進めやすい構成であること、また、思考力・判断力・表現力の育成に関する

活動が充実している点、また、現場の教職員の皆さんの意見等を踏まえて、帝国書院の教科書が適しているということで意見が集約されたように思います。

社会（地理）につきましては帝国書院ということでよろしいでしょうか。

（異議なし）

○教育長　ありがとうございます。

それでは、社会（地理）の教科書につきましては帝国書院に決定をいたします。

次に、社会（歴史）の教科書についてご意見をお伺いします。

○中村委員　まず、各教科書を、その時代の取り扱い方をページ数の比率で見てみました。各社とも近代史の記述が比較的高いのですけれども、その中でも一番多い情報、パーセンテージに上がっているのは学び舎で４０．４％、１１０ページ。次いで帝国書院が３９．４％、１０８ページ。教育出版が３９．３％、１０８ページの順に高い比率になっています。

これに対して、山川出版社、日本文教出版、育鵬社は、古代の扱いが多いのが特徴となっております。

一方、東京書籍は、古代、中世、近世、現代を平均的に取り扱っている、そういう構成になっております。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　違いという点で見ると、特に歴史の教科書というのは注目をされているところなのだと思います。出版社による色の違いというのが常にマスコミでも取り上げられています。それは、記述の内容そのものであったり、あるいは、例えば「大和朝廷」というようなことにしても、漢字で書いているか、平仮名で書いているのか、片仮名で書いているか、色々な立場によってきっと分かれるのだと思います。私自身は、仮に色の違いがあっても、その先生の立場で、教える方が同じ色のものを使うということもありですし、違う立場のものを使って、あえて見方の違いを批判的にも吟味しながら、教科書に書かれていることが全てではないよということを生徒に知ってもらう、それもまた主体的な学びを生み出すために大切だと思っています。そういう意味では、立場によって見方が違うということも実は理解できるようにするというのが重要だと思っています。

ただ、そういうことを思いながら読み比べをしたのですけれども、案外、部分的にはどっちの立場に立っても、一部、資料の紹介の仕方とか記述に不確かな部分、疑念を抱く部分がなかった訳ではないですけれども、思った以上に差異がないなという印象を私は持っています。こういう点で、現場の先生方がどうお考えか、あるいは、どんな印象をお持ちかということを教育指導担当課長から教えていただければと思います。

○教育指導担当課長　例えば、今、「大和朝廷」のことをちょっと出していただいたかと思うのですが、大和朝廷の記載が片仮名なのと漢字なのとあるかなと思うのですが、色々私も調べていく中で、具体的には、日本文教出版社、帝国書院、山川出版が片仮名、東京書籍、学び舎、教育出版、育鵬社が漢字だなという違いがあるなと思ったので、ちょっと確認してみたのですけれども、中学校学習指導要領では漢字で表記されているというような違いはあるなというふうに思っています。

○山内委員　全体的には、どこもある程度バランスを、検定の中でということで、そんなに差がないという印象を持ちましたけれども、そんな理解でいいですか。

○教育指導担当課長　おっしゃるとおりでございます。

○山内委員　ありがとうございます。

一方で、内容面で各社、違いも実はあって、本文以外のところにも少し違いが出ています。先程、地理の方で産業史の話を申しましたけれども、帝国書院は各所に「地域史」というものを入れて、１８テーマ盛り込まれています。それはやはり地理の教科書ともつながる一つのいい試みであるというふうに思います。

それから、日本文教出版は、女性史のコラムを古代から現代まで八つ入れています。分かりやすく言えば、明治時代から戦前までの各行政の中での女性の地位の低い問題とか、そこからどう今のところに至ったか。そういうことをきちんとやはり知ることは重要で、そういう女性史のコラムが入っているというのはよい試みである。そういう出版社による違いというのも一方ではあるなというふうに思います。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　今、山内委員のおっしゃった地域史の問題とか女性史の問題とかは、非常に今日的な問題でもあると思うし、とても大切な表記であるというふうに考えております。

一方、私は先生方の教えやすさの観点で考えてみました。やはり歴史的な見方・考え方を育成できるような資料や構成の工夫が重要になると思います。東京書籍は、「資料から発見！」「もっと歴史に」というコーナーが定期的に掲載されており、学習内容を深めるのに役立つと思います。特に「資料から発見！」では、資料活用の能力と歴史的な見方・考え方の育成を図ることができます。また、「地域の歴史を調べよう」では、身近な地域の調査方法を具体的に示しています。異なる事例を繰り返し挙げることで、調査の方法やまとめ方の視点を身に付けさせることができると思います。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　今、田谷委員が申されました視点から教育出版の教科書を見てみると、歴史的な見方・考え方を活用して説明する、伝え合う、それから要約するなどの言語活動の事例が多く掲載されております。具体的には、「学習のまとめと表現」という部分がありまして、学習したことを関連づけたり統合したりして自分なりの言葉で説明をするという言語活動を取り上げております。また、「歴史の窓」というコーナーでは、生徒の興味、関心を引きつける工夫が多く見られるとともに、問題解決的に授業展開ができるような工夫がなされています。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　今、歴史的な見方・考え方をどう積極的に使っていくかということの話が出ていますけれども、私もその点は重要だと思います。やはり単なる暗記の科目にしてはいけないですし、あるいは、単なる政治権力の交代の歴史のような捉え方ではいけない、もっとダイナミックに時勢の変化とか、産業の変化とか、文化や生活の変化などを重層的に捉えるということが必要になる。そ

して、その変化の背景にある要因を分析していく面白さを知ってもらうということが必要だと思います。その点では、今回どの出版社も文字だけではなくて、屏風の絵とか、錦絵とか、色々な図をさらに分析をできるような、そういう資料を分析できる、そういうレイアウトの工夫もある。これはある意味で、その資料を自らじっくり見て分析をする面白さを知るという意味では大切ではないかというふうに思います。さらにそれをどう各社、補助線を引いているかということで見ると、例えば帝国書院は各章に多角的・多面的に考えてみようという題材が用意されています。さらに「技能をみがく」というコラムで、歴史的な見方・考え方を働かせる上で必要な基礎的な技能が紹介されている、これは優れているなというふうに思いました。

一方、東京書籍は各章の最後に、まとめの活動として、その時代の特色をグループで検討できるように、グループで検討することを求めている訳です。そこで各章で順に異なる思考ツールを紹介している、これが特色だと思います。グループワークをする際に、抽象的な曖昧な議論にならないで、論理的な議論をするためには、そういう思考ツールをうまく活用するというのは有効で、評価してよいのではないかと思います。ただ、一般的なツールの紹介に重きが置かれていて、その歴史の理解とか分析に生かすというところにはもう一工夫あってもよかったかなというところも、ちょっと物足りなさを感じたところです。

そういう、それぞれ一長一短ありますけれども、それなりの工夫はなされているというふうに思います。私からは、そんな印象を持ちました。

○教育長　ありがとうございます。

委員の皆様から様々な意見をいただいておりますけれども、ＧＩＧＡスクール構想を受けまして、今後はタブレット端末の有効活用が求められております。特に社会科においては資料の広がりという点で期待されますが、デジタルコンテンツ等の観点はいかがでございましょうか。

○田谷委員　先程私も申し上げましたけれども、デジタルコンテンツ、ＱＲコードを活用してタブレットを使うとかいうのは、今後の港区の教育には重要なアイテムを占めてくると思います。そういった部分で、実際の授業では見られない、得ることのできない知識、そういったものを視覚的に、あるいは動画で、あるいは画像で見ることというのは、子どもたちの興味をそそるのに大変重要なことだと思っております。

教育出版においては「まなびリンク」を設け、単元導入時に学習に関連した情報を得られるように工夫しています。

東京書籍、帝国出版、山川出版社、日本文教出版は、二次元コードを掲載し、写真資料に加え音声や動画を再生できるようになっています。個人で学習を進める際に歴史的事象をより身近に感じることができるのではないかと思っております。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　特に東京書籍を見ますと、専用のウェブページから、地理とか公民などのほかの分野や、国語や理科などの関連科目、関連教科の資料も得ることができるようになっています。資料の種類も、読み物や動画、それから確認問題集などもあり、充実しておるようですので、タブレット

端末を使う楽しさが広がるのではないかなと思います。

港区では、今年度中に１人１台のタブレットが実現するという現実から見ますと、東京書籍のデジタルコンテンツはふさわしいものであると考えます。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　だいぶデジタルコンテンツの話が出てまいりました。タブレットを今年度中に港区の生徒に配布するというような話も出ているところなのでございますが、今までの話を考えてみますと、東京書籍が港区の生徒を指導するのに適しているという意見が多いような気もいたします。

ここで、現場で指導に当たっている先生方のご意見を伺いたいのですが、指導課長、いかがでしょうか。

○教育指導担当課長　学校からは、東京書籍が使いやすいというような意見を多くいただいています。理由としては、ページの構成が分かりやすいということや、先程から委員の先生にいっぱい出していただいていますけれども、ＱＲコードを活用したデジタルコンテンツも非常に分かりやすいということ、それからまとめの表現活動が充実しているというようなことで、様々な観点からの意見が出されています。特にページの構成については、見開き１ページになっていて、その中に課題、中心資料、資料活用の観点、それからまとめがぐっと入ってございますので、構造的に示されているということが問題解決的な学習を展開していく上で大変扱いやすいというような意見もこちらに上がってきています。

以上です。

○教育長　ありがとうございます。

内容の取り扱い、各時代のバランスの良さ、そして今、お話がありましたように教員の教えやすさ、デジタルコンテンツ等の充実といった視点で考えると東京書籍が港区の教科書として適しているという意見に集約されると思いますけれども、社会（歴史）につきましては東京書籍でよろしいでしょうか。

（異議なし）

○教育長　ありがとうございます。

それでは、社会（歴史）の教科書につきましては東京書籍に決定をさせていただきます。

それでは、運営上、ここで教科書の入れ替えを行いますので、このまましばらくお待ちをいただければと思います。

それでは、準備が整いましたので、引き続き審議を再開したいと思います。

次に、社会（公民）の教科書についてご意見を伺います。

○田谷委員　これまで公民の学習では、対立と合意、効率と公正などを取り上げ、現代社会を捉える見方や考え方の基礎を養う学習を重視してきました。今回の６社の教科書を見ても、人権尊重の立場からも対立から合意に至るまでの過程と考え方の変化が読み取れるように構成されています。そういった構成をされている教科書が多いと思います。世界的に持続可能な社会の実現に取り組んでいることを考えると、今後より一層、公民学習の必要性が増していくと考えられます。その意味

で、港区の子どもたちにとって、よりよい教科書を選んでいきたいと思っております。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　私も公民の学習というのはますます重要になってくると思います。まず一つは、今、効率と公正という言葉もありましたけれども、ある意味で社会で生きていくという上での価値基準というのですかね、価値判断の基準を養うという意味でも非常に重要な科目ですので、そういう点で、何のために公民を学ぶのかということ、それを例えば帝国書院などは学習の「はじめに」というところでまとめていますけれども、港区の中学生にその趣旨というものを理解しながら学んでいってほしいというふうに思います。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　先程、田谷委員の方から話が出ましたけれども、対立と合意、それから効率と公正について各教科書がどのような取り上げ方をしているのかという点での議論が大変重要になるかと思います。そういう点で教科書を見ますと、全ての教科書で現代社会を捉える見方や考え方の基礎を養うということを狙いとした対立と合意、それから効率と公正について取り上げています。

教育出版は単元のまとめとして、「地域のルールを考えよう」と題して、効率と公正という視点で合意を図る体験を取り上げております。それから、学習要領で狙いとする社会生活における物事の決定の仕方、決まりの意義について考えさせることや、個人の尊厳や契約の重要性等、それを守ることの意義、個人の責任に気付かせることに迫ることができる、よい活動だと思います。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　私も同様に対立と合意、効率と公正に着目しました。こういった非常に難しい問題をどういうふうに中学生に理解してもらえるかという点で色々考えました。部活の活動場所や合唱コンクールの練習場所の話し合いなど、これはよく公立の区内の中学校ではある問題ですし、また往々にして練習時間とか場所の問題で子どもたちが色々と意見を食い違わせるというところがあります。そういった身近な学校生活の問題を取り上げてテーマにしているのは東京書籍、教育出版、日本文教出版、自由舎、育鵬社でした。これらのテーマは中学生にとっては大変身近なテーマで、理解しやすいのではないかというふうに思っております。

また一方で、マンションの騒音問題やゴミ置き場、自転車のルールなど、居住地域の問題についてテーマにしているのが東京書籍、教育出版、帝国書院でした。特に１８歳から選挙権が与えられることを考えると、これは非常に重要な問題で、中学生のうちから自分の住むまちの問題を考えることの必要性もあるかと思います。これも学習指導要領の趣旨にのっとって学べる題材ではないかと思っております。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　今の点で言えば、確かに東京書籍は、部活動から始まって、視野を広げて、市の取組についても、それを題材にしながら考えて、自転車の使用ルールを考えよう、そういう比較的身近な領域というか、身近な空間での判断ということにも題材が広がっていました。そういう中で、市民の様々な考えを丁寧にくみ取って、資料を基に解決策を判断する。そういう工夫がありますけれ

ども、さらにそこで、みんなでチャレンジというようなところに、効率と公正という二つの座標軸を使って考える、それも思考の整理をしたり意見交換をする上で非常にいい試みだと思います。いわば、効率と公正、時にトレードオフの関係がある二つをそういう座標軸の中で整理する、こういう流れも評価できるというふうに思いました。

○教育長　ありがとうございます。

ただいま、委員の皆様からは、対立と合意、そして効率と公正ということでご意見をいただきましたけれども、そのほかの視点はいかがでございましょうか。

○田谷委員　学習指導要領では、社会に見られる課題を把握したり、その解決に向けて考察・構想したりする学習を重視することが述べられております。この考察・構想という視点で見ると、東京書籍の「まとめの活動」が充実しております。毎回、これからの社会に自分はどうかかわっていくかという視点で構成されており、社会への参画意識の醸成を図ることができると思います。

公民の教科書は、どうしても知識中心の解説に終始しがちな傾向がある中、このような活動は非常に分かりやすく子どもたちにアピールするという点で重要と考えます。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　今の、考察・構想という点で言うと、レポートをどう作成するか、その手順とか書き方も、例えば東京書籍あるいは帝国書院、それから日本文教出版は丁寧に説明されていると思いました。特に帝国書院は、修正前のレポートと修正後のレポートを対比して、具体的にどんなところが問題なのか、それがどういう工夫をしたことでどう改善したかということが分かりやすく示されています。こういう具体的な説明というのは、この公民だけでなくて、どんな教科においても重要な視点で、広く活用できる力になるのではないかと思います。

それから、今回の改訂では、ほかの教科と同じように思考ツールの紹介も多い訳ですけれども、その説明の程度というのは、どの教科を見てもちょっと甘いところもあるのですが、例えば日本文教出版の公民の教科書は、フィッシュボーン、いわゆる特性要因図についての説明が非常に手堅くなされていて、そのように思考ツールについて手堅い説明がきちんとなされているという点では評価できて、どの教科書を採択するにしても、そういう手堅い説明があるようなところは活用しながら教育に生かしていただければというふうに思いました。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　公民という教科の特性を考えた際に、やはり生徒たちが自分はどのように社会とかかわっていくことになるのかということを考えることは非常に重要だと思います。先程、話題に上がりました１８歳から選挙権のことなどを考えると、東京書籍の特設ページ、「１８歳へのステップ」１３６ページですが、そこのコーナーに書かれている内容はとても素晴らしいと思いました。社会の一員であるのだという自覚を醸成することにつながる、非常にいいコーナーだと思いました。

以上です。

○教育長　ありがとうございます。

委員の皆様からのご意見を踏まえますと、現在使用している東京書籍がいいという意見が多いよ

うに思います。冒頭で話題に上がりましたけれども、世界的な課題である持続可能な社会について、ＳＤＧｓの各社の取り上げ方が異なっている印象を受けてございますけれども、それについては何かご意見はございましょうか。

○中村委員　今、教育長が言われましたＳＤＧｓに関してですが、日本文教出版、自由舎と育鵬社は、ポイントを絞って問題点、それからこれから目指すべき社会のあり方というようなものを示しているようです。

教育出版は写真資料を多く掲載しておりまして、帝国書院はＳＤＧｓマークを設け、各ページで関連がある箇所が分かりやすく表示されております。

東京書籍は見開きを含めた４ページで詳しく取り上げております。最終的には、どのような持続可能な社会を実現していくのかをアクションプランとして、２１７ページになりますが、まとめております。

以上です。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　今、対立と合意、効率と公正、あるいは考察・構想、あるいはＳＤＧｓ、それぞれ意見が出てきましたけれども、やはりそういう新しい観点、重要な観点、あるいは思考をどう養うかということが重要ですけれども、一方で、グループで議論するにしても、その教科書としての記述の厳密さとか正確さということも注意しておかなければいけないというふうに思っています。

今の議論でも東京書籍が比較的評価が高いと思っていますけれども、一方で、やはり内容によってはそれぞれに一長一短の記述があると思いますので、ちょっとだけ指摘しておきたいと思います。私は一つ、経済学の説明として、市場の仕組み、価格のメカニズムがどう説明されているかということを実は昨日、夜、読み比べをしたのです。そうすると、どの教科書もいわゆる需要曲線と供給曲線を使って、価格がどう決まるかということを説明しています。ただ、東京書籍は、その交点からずれている、過剰な供給あるいは過剰な需要があって、そこからどう交点のところに均衡していくかというプロセスが実はあまり分かりやすくない。説明が十分ではない。その点で言えば、帝国書院とか日本文教出版の方がより分かりやすく書かれています。

それからもう一つは、実際には色々な条件で需要曲線、供給曲線がシフトして均衡価格が動く訳ですけれども、そういう発展的な例というのが、例えば帝国書院は具体的な例を示しながら、需要曲線や供給曲線がシフトすることが起こるということを書いています。そういうのがあると、より価格のメカニズムというのを面白く学ぶことができる訳です。その点では、教育出版の場合はさらに評価できると思ったのは、価格のメカニズムの説明も適切だったと思いますし、さらに第四章の学習を振り返って整理しようというところで、台風とか大雨とか連休とかで需要曲線、供給曲線がシフトしていく、価格が動くということを、また生徒自ら考えられるように場をつくっています。単に交点で均衡するというところで終わっては面白くなくて、色々な条件によって価格が動く、それを自分なりに分析できるというところまで持ってきて初めて面白く価格のメカニズムを学ぶことができる訳です。そういう点で東京書籍以外の出版社も優れている工夫がありますから、そういう

こともぜひ生かしながら授業を展開していただければというふうに思いました。

そういうことも踏まえながら、現場で指導されている先生方がどう今回の教科書をお考えかということを伺いたいと思います。

○教育指導担当課長　学校からは、価格のメカニズムのちょっと細かいことについてはないのですけれども､全体的に総合的に東京書籍の教科書が使いやすいなという意見を多くいただいています。主な理由としては、写真やグラフとか図などが大きく掲載されているので子どもたちがその資料を活用しやすいということ、それから、議論の中にございましたが、教材として生徒の生活に身近な事例が多く取り上げられているということ、あと山内委員がおっしゃっていた、みんなでチャレンジなどの主体的・対話的で深い学びが実現されるような学習活動が充実しているという点で、東京書籍が港区には合っているのではないかという意見を多くいただいています。

○山内委員　ありがとうございます。私も、それで結構だと思います。先程、価格のメカニズムのところと聞きましたけれども、やはり単元によってそれぞれの出版社の説明の分かりやすさというのは、それぞれ一長一短ありますので、そういうところも踏まえながら、よりよい授業を展開していただければと思います。

○教育長　今、山内委員の方にまとめていただきましたけれども、価格のメカニズムの部分についてはちょっと検討してもらうということも踏まえまして、社会（公民）につきましては、現場の教職員の意見も踏まえて、東京書籍ということでまとめたいと思いますが、いかがでございましょうか。

（異議なし）

○教育長　よろしいでしょうか。

それでは、社会（公民）の教科書につきましては東京書籍に決定をさせていただきます。

次に、地図の教科書についてご意見をお伺いいたします。

○中村委員　地図に関しては、東京書籍と帝国書院の２社になっているようですが、全体の構成でちょっと比較しました。それによりますと、地図等の種類は、東京書籍は３４７に対し帝国書院が４４３。作品に記載されている世界の地名数は、東京書籍が１，３５８に対して帝国書院が１，７４９。それから、作品に記載されている日本の地名数は、東京書籍が２，１５２に対し帝国書院が２，５６７。この数字に表れているように、全体的に見ますと帝国書院の方が情報量が豊富というふうに言えそうです。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　地図は、単なる地理的な理解を深めるツールではなく、社会的事象について位置や距離関係を捉え、地理的な見方や考え方を育む重要な役割を担っております。したがって、生徒にとって、地図の見やすさ、統計資料の活用のしやすさがポイントだと思います。その点では、東京書籍は落ち着いた淡い色調でまとめられ、視覚的に目に優しく、光に反射しにくい材質、紙質を使っていると思っています。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　今、２人のご指摘はそれぞれ重要であると思います。一つは、主体的に学ぶというところでは、索引がきちんと充実しているかどうかということが重要で、その点では帝国書院は索引が丁寧につくられていると思います。

一方、見やすさということを考えると、これはかなり好みというものもありますけれども、帝国書院は、地図の見やすさといいましょうか、地形の視覚的な捉えやすさという点では、私は見やすい、本当に主観的な印象ですけれども、そう思いました。

○教育長　ありがとうございます。

今、委員の皆様からは見やすさの観点でのご意見をいただきました。また、山内委員からは、地図を活用する際の各種の資料の重要性についてもお話をいただきましたけれども、その点についてはいかがでございましょうか。

○中村委員　統計資料につきましては、両社ともカラーでまとめられていて、非常に見やすくなっているという印象です。

東京書籍はグラフや写真、図の資料が大きく、それから数多く掲載されているようです。

帝国書院は、同じように人口や資源、エネルギー、農林水産業、それから工業など、世界全体のものが掲載されているほか、日本と世界の関係性、それから比較について、各種の扱いの中に、日本との結びつきがトピックで掲載されています。

教員にとっても多様な授業を展開する上で活用しやすい資料になっているのではないかと考えております。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　私もいいですか。

○教育長　はい、どうぞ。

○山内委員　そういう統計資料の面もそれぞれ工夫があると思いますし、それと身近な題材という点で、東京という地域をどう表現しているかということも併せて見ていくということも必要だと思います。そういう意味では、帝国書院の方は例えば人口の流入増加の変化ですとか、そういうことも比較的詳しく丁寧に説明されている、さらに気象の変化の影響がどうあるかとか、かなり多面的に記述されているという印象を持ちました。

他方で東京書籍も同じような工夫があって、さらに例えば都心部に注目をした記述もあるというように、それぞれ工夫がなされているという印象を持ちました。

○教育長　田谷委員、いかがでしょうか。

○田谷委員　今、両委員から、統計的であるとか、それから身近な事例といったようなお話がありましたが、やはり何と言ってもこの教科書で難しいのは、昨今の日本の領土について色々と報道で取り上げられている点であります。生徒にしっかり日本の領土について理解させる必要があり、その点では両社とも、例えば帝国書院で言うと７８から８０に、東京書籍では１１０ページでございますが、北方領土、竹島、尖閣諸島について触れられており、歴史的背景や現在の状況が記述されています。生徒にとって理解が深まって、よいことだと思っております。

○教育長　ありがとうございます。

　そのほかの視点という点ではいかがでございましょうか。中村委員、いかがでしょうか。

○中村委員　昨今、取り上げられている視点として、災害とか防災の観点も挙げられると思います。この点から見ますと両社ともに震災や洪水、それから火山など、様々な自然災害を取り上げていますが、帝国書院の方には特に都市型洪水への備えが掲載されています。その点では、生徒も身近に感じますし、情報量としても帝国書院の方が勝っているというふうに言えるのではないかと考えます。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　私も今のご指摘については同感でありまして、先程、ヒートアイランド、環境との関連も書かれているということは申しましたか、都市型洪水への備え、あるいは大規模災害への備えとして、昼間の人口密度がどういう状況にあるかというようなことも地図で示されている。そういう防災あるいは災害に対する備え、対応ということでも考えるための材料が用意されていると思います。

　３．１１のこともそうでしたけれども、防災への意識、あるいは様々な災害への予防策をどう考えるのかということ、そういう教育の中でも帝国書院の方が活用はしやすいのではないかというふうに思いました。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　１点だけ。港区のことがどの程度、地図の中にクローズアップされているかということは生徒にとっては非常に興味、関心がわくとこだと思うのです。その点からちょっと見てみると、東京書籍の方は、１２８ページですけれども、六本木の再開発が取り上げられたりしていますし、東京中心部の地図に大使館が文字と国旗が併記されて表記されております。これが１２６ページです。

　一方、帝国書院の方は、東京の中心部の地図に東京タワーや六本木ヒルズ等、ランドマークが掲載されている。１２５ページです。あと東京の臨海部の開発図について鳥瞰図が掲載されております。これが１２９ページです。

　こういうところから、港区の様子が分かりやすく捉えられていることがあります。そういう意味では両社とも港区のことはそれなりの情報が入っているかなと思いました。

　以上です。

○教育長　ありがとうございます。

　ただいま委員の皆様から、地図の見やすさや、資料の活用のしやすさ、防災等、また、港区の取扱いについてと、様々な観点から議論をいただきました。両社のそれぞれの特徴が明確になってきましたけれども、意見を集約してまいりますと帝国書院がよいという意見が多かったというふうに考えますけれども、地図は帝国書院でよろしいでしょうか。

（異議なし）

○教育長　ありがとうございます。

それでは、地図については帝国書院で決定をいたします。

次に、数学の教科書についてご意見を伺います。今回の学習指導要領の改訂では、数学的活動のより一層の充実と、統計教育の充実が示されてございます。特に統計教育につきましては、社会生活などの様々な場面において、必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり意思決定をしたりすることが求められてございます。そのような能力を育成するために、小中学校とも充実が図られております。

それでは、ご意見を伺います。いかがでしょうか。

○山内委員　統計のデータの活用というのが今回、充実したというのは大きな特徴だと思います。例えば箱ひげ図などの学習、つまりデータのバラつき、分布をどう捉えるかということについての学習が中学２年生に入ってきたというのは、大きな今回の改訂の特色だと思います。その中で、色々読み比べましたけれども、やはり題材をどうつくるかということが重要です。例えば東京書籍で見ると、箱ひげ図を考えるのに、桜の名所の近くのコンビニで、花見の時期と花見の前の時期でスナック菓子などの売れ行きがどう変わっているかというのを比較する。花見の時期にはどの商品がよく売れるかというテーマで比較をして、花見の期間、花見直前の期間、それから平日と休日、そういう形で販売の傾向を見るような形です。教科書によっては、小学校の教科書と同じように、体力測定であったり、本を読んでいる数とか、そういうのもありますけれども、こういうコンビニの売れ方というようなテーマをとると、こういうデータの活用というのが今後、例えばマーケティングであったり、お店の経営戦略であったり、様々なところにまで発展させて生かせるんだということを知ることもできて、そういう意味で、データの活用の面白さを感じ取ってもらうという意味では、よい題材なのではないかというふうに思いました。

他方で、自分でデータを取るということも重要で、出版社によっては、四角い紙を落とす、その紙の形によって滞空時間がどう違うかということで分析をしています。自分でデータを取って、それを分析していく、そういう思考も重要で、そういう意味で題材の選び方で今回、出版社によって差が出ているというふうに思いました。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　先程、冒頭の教育長のお話にもありました、社会生活などの様々な場面において活用できるかということだと思うのですけれども、もうちょっと具体的に示しますと、大日本図書、２年生の１６８ページは、岐阜市の気温の分布の様子や、１年生と２年生の図書委員の読書時間の比較、三つの中学校の野球部の５０メートル走の記録、各国のバレーボール選手の身長など、四つの資料を基にデータの読み取りができるようになっています。

学校図書の同じく２年の１９８ページも、4 種類の資料を取り上げて考えることができるようになっています。

教育出版も２年生の比較になりますが、２０２ページ、７、８月の気温分布、あるいは、数研出版の１７１ページは３種類の資料を扱っています。非常に身近な複数の資料を提示することで、範囲や箱ひげ図の有用性をじっくり味わうことができるという意味では、非常に有用な導き方をして

いるのではないかと思います。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　同じような視点からいきますと、啓林館や日本文教出版も、インターネットの通信速度や猛暑日の多い地域を主軸とした学習を展開していくところが東京書籍と似ております。しかし、そのほかの資料も扱い、学んだことを生かして資料の傾向を読み取ることができると考えます。

教育出版では、調べたことをレポートとしてまとめる方法が示されていて、生徒が資料から読み取ったことを考察する手順が示されています。自分で考察したことをまとめる学習は将来の実生活に生きる、そういうふうに考えます。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　今、ずっとデータの活用のところが話題となっていますけれども、そういう中で、やはりそれを自分の課題として生かして、自分でまとめていくという学習がさらに必要になる訳ですけれども、東京書籍もレポートという点では単元の学習に生かせるようなテーマを持たせて、分かりやすくまとめているというふうに思いますし、その中で自分の考えの根拠として箱ひげ図などを適切に活用するということ、それを考えることができるのではないかなというふうに思っています。論理的に自分の考えをどう構築するかというところにデータの活用を生かすということが必要です。

ただ、もう一つはデータの活用に関して、去年も小学校の教科書を確認しましたけれども、去年の小学校の教科書で非常に優れていたのは、ＰＰＤＡＣサイクルを回すというところがあって、実は各社かなり力が入れられていました。プロブレムがあって、計画、プランを立てて、データを取って、アナリシス、分析をして、コンクルージョン、結論を出して、そしてまたその次のプランに回る。そのサイクルを回すというところが重視されていたのですけれども、今回、中学校の教科書は実はそれがあまり表に出てないというのは、ちょっと物足りなくて、今、どの出版社だったかメモを忘れましたが１社だけが非常に丁寧にそこは書かれていたのですけれども、あまりほかの出版社が書かれてないというところは、ちょっと残念に思ったところです。ぜひ、そういうところは現場の教育の中で補っていただきたいというふうに思いながら読ませてもらいました。

○教育長　ありがとうございます。

そのほか、ご意見を伺いたいと思います。

○中村委員　生徒が数学的な見方・考え方を働かせていくということを考えたときに、数研出版の教科書は随所に「数学的な考え方」という記載をしており、考え方のポイントが分かりやすくされているなと感じました。１年生の教科書では観音開きのように示されているので、大事な見方・考え方を授業の中でいつでも生徒自身が確認できるようになっています。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　そういう見方ということで言うと、啓林館とか数研出版も、キャラクターが出てきながらというのが中学生に必要かどうかは別ですが、キャラクターが間違いやすそうなところのヒントを出したり、見方とか考え方のポイントを示して、目につきやすい、親しみやすく、そういうポイントを確認して、自分がどこに目をつければいいかということを考える、そういうことができる

ようになっていると思います。

また、大日本図書も「思い出そう」という記載があって、そこで、そこまでで学んだ見方とか考え方を振り返るということができるようになっています。

学校図書も同様の工夫があり、また、その単元で学んだことから次の課題を見出すというような工夫があり、それぞれいい工夫がなされているなという印象を受けました。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　さらに学びの過程という点で言えば、東京書籍の２年生８３ページは、章ごとの扉絵で、単元のイメージを膨らませ、課題意識を持たせていると思います。扉絵の中に単元での重要な視点がヒントのように散りばめられており、学習を進める上で、よい気付きを生み出すことができそうです。実際の授業を想定したときに、教員と生徒が問題をつくりながら授業を進める中で、課題意識を持ったことを次の時間に解決しようとする態度が養われると思います。また、深い学びと、扉絵に記載されている知識・技能を身に付けるだけでなく、生徒の思考力・判断力・表現力の育成の面からも、よい単元のつくり方だと思います。

○教育長　ただいま、深い学びといった点でのご意見をいただきましたけれども、思考力・判断力・表現力の育成という点で、そのほかの教科書については、皆さん、いかがでございましょうか。

○中村委員　日本文教出版の教科書は、巻末に「対話シート」というのがついております。教科書の学習の中で思考力・判断力・表現力を高めたい内容については、このシートを使って学習することができ、ノートに貼って残すことができるようになっています。

また、シートではないですけれども、数研出版は「探究ノート」というのがついておりまして、ノートとして学びの軌跡を残すことで、生徒自身が学びの積み上げを実感し、見方・考え方を振り返りながら学習することができるというような工夫がなされております。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　思考力、深い学びというところで言うと、先程、出版社名を言い忘れたので、それを補足した上でお話をしますが、先程のＰＰＤＡＣのサイクルを回すということが分かりやすく書かれているという点では、大日本図書が実はそれで、バレーボールの選手の身長を比べようというところで、ちょうどページの端に、プロブレム、プラン、データ、アナリシス、コンクルージョンというところに色がちゃんとついて、どの部分がどこに対応しているかが非常に見やすく書かれていました。こういう工夫が必要で、そこは大日本図書の評価できるところですし、その思考を深めるという、先程の箱ひげ図を例にとっても、データの分布がヒストグラムをどう見るか、どう突き合わせて見るかというところで、出版社によっては、単に山がどっちに偏っているかというところだけで終わっている出版社もありますけれども、出版社によっては、その二つの山がある場合、やはり箱ひげ図だけでも見落とす、それはヒストグラムと突き合わせなければいけないというところが分かるようになっている。それは大日本図書もそうですけれども、そういう違いが出ています。そういうところをどう生かすかでは、ない出版社であればそれを補って、深い思考力を身に付けていくというところにつなぐ必要があると思います。

それから、港区の場合は数学も英語も少人数の習熟度別の学習というのを積極的に行っています。その点で言えば、例えば学校図書も章のまとめが基本と応用と活用となっていますし、数研出版も問題のＡとＢと分かれていて、比較的習熟度に応じた指導がしやすい構成になっているという印象を受けました。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　今、若干、山内委員も触れられていましたけれども、中でも大日本図書の２年生、９４、９５ページは、章の問題が「ふり返ろう」「力をのばそう」と分かれているだけではなく、巻末も習熟を図る補充問題、同じく２１８ページと、思考力・判断力・表現力を求められる総合問題、２２４ページというつくりになっています。

また、これは大変面白いのですが、啓林館は「自分から学ぼう編」として、巻末から縦開きに習熟問題や活用問題が掲載されており、これはまた素晴らしいと思います。また、「学びをいかそう」として、発展教材が様々記載されていて、学びを生かして取り組むことができる、それこそ習熟度に応じた学習ができそうです。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　東京書籍も習熟度に応じた学習として、習熟と活用の問題があります。それから教育出版、日本文教出版も習熟度に応じた学習を展開ができる問題のつくりだと感じています。

そこで、習熟度に応じた学習のほかにも、本区が推進している小中一貫教育という面からも検討してみてはいかがかなと思います。やはり数学は、小学校の学習でのつまずきが中学校以降のつまずきにつながることが多いと思いますので、一貫教育という観点からの検討も必要ではないでしょうか。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　今、中村委員から小中一貫教育という言葉が出てまいりました。皆さんもご存じのように、港区では現在２校、小中一貫校として既に動いている学校がございます。どの教科書も巻末に小学校数学の内容をまとめとした掲載をしています。特に東京書籍の教科書では、１年生の教科書９ページに、これは「０章」という表現をしているのですけれども、０章という表現で、九九表で学習を展開していくというのも、算数の世界から徐々に数学に入っていくという流れで、抵抗なく数学の世界に入れるようになっております。特に小中一貫校の場合は、中学校に小学校の先生が来て勉強するというような事例もあるようでございますので、そういう意味では、小学校で十分理解できなかったという言い方は変でしょうが、小学校のことをまた中学校で優しく小学校レベルの教育ができるという意味でも、この０章を設けてくれるのはよいことだと思っております。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　東京書籍の教科書は、単元として小学校との接続の内容を起こしているところがよいと私も思います。この０章も、しっかりと単元を通して九九表を使い、学びを連続させていく中で数学的な見方・考え方を養っていくというコンセプトがよく表れていて、そういう意味では、東京書籍の教科書は優れているというふうに考えます。

○教育長　ありがとうございます。

様々な意見が出ておりますけれども、統計の学習や問題解決のプロセス、習得度別学習における扱いや、小学校の算数とのつながりなど、多様な視点からご議論をいただきました。その中でも、やはり単元の内容にテーマ性を持たせて、生徒が学びを振り返りながら新たな問いを持つように学びに連続性を持たせている東京書籍の教科書が分かりやすいといった意見が多かったように思います。

数学の教科書につきましては東京書籍ということでよろしいでしょうか。

（異議なし）

○教育長　ありがとうございます。

それでは、数学の教科書につきましては東京書籍に決定をさせていただきます。

次に、理科の教科書についてでございます。今回の学習指導要領の改訂では、観察や実験を通してその結果を整理し考察するなどの探究活動を充実させているほか、理科を学ぶことに意義を感じ、理科への関心を高めて、日常生活や社会とのつながりを持たせることを重要視してございます。

それでは、そういう視点からご意見を伺いたいと思います。

○田谷委員　理科は港区にとって重要な問題だと思います。理科だけが、どうしても全国平均とかそういったものにおきまして、港区の学力は決して高くないという見方をしております。実際、港区の子どもが理科に関心を持って楽しく学習に取り組めるように、特に港区に合った教科書を採択していきたいところでございます。

港区で使用する教科書を採択する際の理由の一つになると思うのですが、これは本当に港区もいい施設をつくっていただいたと思うのです。本年４月に開設されたみなと科学館。このみなと科学館と学校が今後ぜひとも連携した取り組みを行っていただきたいと思います。その辺について、少しお話を伺いたいと思います。

○教育指導担当課長　みなと科学館は、一般の方も利用できるような体験学習センターとして、常設展示のものやプラネタリウムもある科学館です。田谷委員がおっしゃるとおり、子どもたち全てに利用していただきたい、連携してやっていきたいと思ってございますので、学校ごとに現在、見学する機会の準備も進めてございます。その中には実験室もございまして、そこで子どもたちが実際に実験を体験できるようなものなのですけれども、そこにすごく大きな電子顕微鏡も設置しておりまして、子どもたちだけじゃなく、理科の教員がその電子顕微鏡を使って物質の写真とかの作成とかも行うことができるような形になっています。例えば化学の分野の原子とか分子の学習の際に、そこにこう持っていって写真をつくることによって授業でも活用できるような形ができるような形で今、色々相談をしたり、計画を詰めているところでございます。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　今、担当課長の方からお話があった視点で考えていきますと、学校図書の２年生の教科書の１４ページとか１５ページあたりに、電子顕微鏡よりもさらに小さい物が見える走査型トンネル顕微鏡の写真が掲載されております。このような写真を見ながら、みなと科学館で教員が実際

に撮影した原子の様子を見て理解することは大切であり、感心を高める学習につながっていくなと感じました。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　今、議論を伺っていても、やはり港区の資源をどう生かすかということ、それから教室でも、どの程度手を動かす実験をしたり、あるいは供覧実験の供覧をするか、そういうことによってもどの教科書がいいかというのは実は変わってくるのだろうというふうに思っています。

例えば教育出版とかは、２年生の巻末に「原子モデルカード」というものを付録に載せていますけれども、こういうものを使って考えるということも重要かもしれませんが、例えば、そういう港区の色々な資源を活用するという中で、こういうので本当に意味があるのかとか、逆にこれではもう仕方ないということかもしれませんし、そういうことを丁寧に考えるということも実は必要なのだと思っています。

それからもう一つは、理科の学習の視点で、やはり中学生で重要なのは、実験のデータをどう扱うかということについての説明がどうあるかということだと思っています。その意味をどう理解していくか。例えば、私はそういう点で、有効桁数とか有効数字とか誤差というものの記述がどうかということ、あるいは誤差のある計測データのグラフの描き方、一見、地味なのだけれども、理科の学習では重要なところ、その説明がどうかというのを読み比べもしてみました。どの出版社も１年生で比較的簡易ですけれども触れている。あまり差はなかったように思います。ただ、出版社によっては付録でまとめているところもあります。でも本来は、やはり教育の柱の中で記述すべきことだというふうに思っていますし、誤差の概念を説明して、それ以降の頁では、誤差のあるデータのグラフになることが自然なのですけれども、そうなってない出版社もあったりということがあります。あるいは、誤差があるデータでグラフを描くというときに直線状に点が並ぶと意味がない訳ですけれども、実際のグラフを見るとほとんど直線状に並んでいたりとかで、やはり配慮が不十分な出版社もある。そういうところも丁寧に見ながら私も検討をさせていただきました。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　色々ご指摘があるところでございますが、私は啓林館の２年生の教科書巻末の「探究シート」に原子のモデルカードが附属で備えられていることに着目いたしました。化学反応式をつくることもできますが、このシートに掲載されているＱＲコードで実験の動画を見ることと、反応前と反応後の原子や分子の様子を確認することができます。動画を見ながら個人で学習が進められる探究シートは、家庭学習で取り入れることが十分にできると思います。この秋に、再三申し上げましたが、生徒１人に１台配付されるタブレット端末の活用においても港区に合った教科書だと思っております。

○教育長　ありがとうございました。

冒頭で、みなと科学館との連携という点についてのご意見をいただいておりますけれども、そのほかの視点という面では、いかがでございましょうか

○山内委員　やはり生徒がどう本当の意味での探究のプロセスを身に付けていくか、あるいはその

面白さに気付くかということが大切で、その視点から教科書を評価するということが必要だと思います。どの教科書も写真とかグラフとか興味を持ちやすい、分かりやすい資料を使いながら、対話を進めながら探求のプロセスをたどろうということは考えられているというふうに思います。

そういう中で例えば教育出版も、「疑問を見つける」という教材から、考察とか結論を示すというマークがあって、そしてさらに新たな疑問を見つけるという、その次のサイクルに回る探究の過程が示されている。そういう工夫はいいなというふうに思いながら見ました。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　東京書籍は、一つの節が探求の過程に沿って分かりやすく構成されていて、友達と対話しながら主体的に問題を解決する活動を通して探究活動を行っていく、生徒にとって分かりやすい構成になっております。

また、節末にある「科学の歴史」というコーナーでは、科学史のマンガが増え、生徒にとって興味、関心を抱かせるように工夫されているようです。理科を学習していく上で科学史は大切な要素であると思います。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　学校図書においては、学習効果を高めることができるよう、巻頭の「理科のトリセツ」で、なぜ理科を学ぶのか、理科でできるようになることを明確に示したり、探求学習の過程で生徒が考えたり行動したりするときの視点を意識しやすい紙面構成としています。また、単元の終わりに、その単元で学習した知識や技術、技能を整理するまとめがあり、思考力を育てられるのではないかと思っております。

また、大日本図書は、学習の流れを大きく三つに分け、次の課題へと進むことで考えを深め、課題を解決する力が身に付くよう工夫されています。また、２年生、教科書１８２ページには、生徒がつまずきやすい例題の解答例が掲載されており、生徒がどのように考えていけばよいか、見通しを持って学習を進めることができるようになっていると思います。

私もこの項でとても思うのが、理科で何を学ぶのか、理科で何ができるようになるのかという視点というのが、将来になって考えたときに非常に楽しいことだと。理科をどうして勉強するのと、私も先日、担当の理科の先生としばらく話をさせていただいたのですけれども、港区はどうして理科が若干という先程お話をいたしましたがというところで、やはり教師側の、あるいは教科書による教え方で、理科で何を学ぶのか、何ができるのかということ。理科というのは、やはり日頃、我々の生活にも非常に密着したことである、その辺を理解してもらって、楽しく勉強できるような、そういう教科書を理科では推薦したい、採択していきたいというふうに思いました。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　今、田谷委員のご指摘の点というのは非常に大切だと思います。また、二つの教科書の指摘は私も同感です。ただ、「トリセツ」というのは、日頃私たちでもトリセツというのは大体、読まなかったりします。せっかくそういう大事なことを書くなら、トリセツなんていう言葉を使わずに、もっと大事な位置づけをしてほしい、もったいないと思いながら、この学校図書の教科書を

見ました。

今のような指摘で言うと、私は啓林館の教科書は優れているというふうに思います。一つは探究の過程というものが視覚的にも分かりやすく書かれています。疑問があって、課題があって、仮説があって、計画があって、観察、結果、考察、結論、そしてまた次のもう１回サイクルへ戻っていく、そのプロセスが非常に視覚的に分かりやすく書かれています。さらにそれがそれぞれの単元のところで同じようにその絵が使われていたり、あるいはどこに対応しているのかということも分かるように説明がある。かなりその探究の過程というプロセスを意識してつくられていたというのが啓林館の評価ができるところです。実は、これは非常に重要なところだと思っています。

というのは、自然科学、理科系の教育をしていても、仮説から結論で終わって、次のサイクルに戻ってこないという思考の人たちが実は多いのです。私も大学で教育していますけれども、そのサイクルを回すという発想がなくて、仮説の検証で終わってしまうという感覚の人が実は学生に多いのです。そういう意味では、この思考のサイクルをちゃんと中学生のうちに身に付けるということは重要で、その点で啓林館は非常に工夫がされている、そこを意識したのだと思いました。

それからあと啓林館について言うと、巻末のサイエンス資料というところで、データの処理とか結果の整理の仕方が記載されている訳ですけれども、そこで結果について誠実に向き合うということの大切さというのでしょうか、それが示されています。中学生に分かりやすい「フェアプレイ」というような言葉を使いながら説明されています。ご承知のように近年、色々な研究の世界で、日本に限らず世界各国そうですけれども、データの改ざんとか利益相反とかが問題になり、科学における倫理的な配慮ということの重要性がますます指摘されるようになっている訳です。それをやはり中学生のうちから分かりやすい言葉で感じ取ってもらう、理解してもらうということは必要で、その点でもよいのではないかと思いました。

あともう一点加えると、やはり理科の教育の難しさというのは、見えない現象をどう可視化するかということだと思うのです。それをどう実感を持って分かるように可視化するかということで、３年生の例えば力の合成と分解というところを読み比べてみましたけれども、教科書会社によっては分解は単に平行四辺形で書いていて、その分解をして終わっているような感じのところもありますけれども、そういうところを実感を持って理解しやすくするというところの工夫も啓林館が比較的優れていたかなという印象を持ちました。

○教育長　ありがとうございます。

山内委員の方から今、理科の教育の難しさというお話もありましたけれども、理科の日常生活や社会とのつながりについてはいかがでございましょうか。

○中村委員　そういう点から見ますと、各社ともそれなりの工夫はされていると思います。ただ、その中でも特に啓林館の教科書を見ると、「部活ラボ」とか「お仕事ラボ」などといった、該当の学年で学ぶ内容に則した科学コラムというものが十分に記載されておりまして、子どもにとっても身の回りの科学を身近に感じやすくする工夫が施されております。

みなと科学館の視点にもありましたけれども、タブレット端末が活用できるというのも非常にい

いなと思います。

また、学習を進めていく上で日常生活や社会とのつながりを明確に示すことは、教える側、教える教員にとっても大切な視点であると思います。若手の教員にとっても、子どもにより丁寧に教えやすいということが重要であると思います。その点では、バランスよくできているのが啓林館だと思います。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　先程も申し上げましたが、港区の課題でもある理科の学力向上に向けて、理科に関心を持って楽しく子どもたちに学んでもらいたいというためにも、啓林館、２年生の２１２ページ、２１３ページに見開きでダイナミックに撮影された東京タワーへの落雷の写真が掲載されてございます。これはとても印象的です。この写真は、電流が毎日利用している電気器具に使われているだけでなく、雷などの自然現象の中にも見ることができることや、電流の正体はどのようなものであろうか、電流に対する不思議を探究してみようといった、生徒の興味を高めることができると思います。

○教育長　ありがとうございます。

ただいま皆さんから意見をいただきまして、みなと科学館の視点、あるいは探求学習の視点、日常や社会生活の視点からご意見をいただいております。これまでのご意見をまとめますと啓林館を推薦する委員が多いように思いますが、理科につきましては啓林館ということでよろしいでしょうか。

（異議なし）

○教育長　ありがとうございます。

それでは、理科の教科書につきましては啓林館に決定をさせていただきます。

それでは、運営上、ここで委員会を休憩させていただきたいと思います。開始は１１時４５分ということで決定をしたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。

（休憩）

○教育長　それでは、休憩前に引き続きまして委員会を再開したいと思います。

次は音楽（一般）でございます。音楽の教科書につきましては２社でございます。今回の学習指導要領の改訂では、感性を働かせて他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてその良さや美しさなどを見出したりすることができるよう、内容を整理するとともに、音や音楽と自分のかかわりを築いていけるよう、生活や社会の中での音や音楽の働きについての理解を深める学習を充実することが挙げられてございます。また、知的財産に関する取扱いの記載を充実し、著作物及びその著作者の創造性を尊重する態度を形成することも示されてございます。

そのことを踏まえまして、皆様からのご意見をお願いいたします。

○田谷委員　今回、教育出版社と教育芸術社の２社でございますが、両方とも表現、鑑賞のバラン

スを意識して教材を取り上げており、生徒に親しみやすい楽曲を取り上げるなどの工夫をしていると感じます。この二つをバランスよく学習していることがよく分かるのが目次の次のページだと思います。教育出版社、１年生４ページは、「学びのユニット」として、学習内容と音楽要素が記載され、見通しを持って学習できるようになっています。

一方、教育芸術社、１年生８ページは、学習内容として、育成したい資質・能力に項目を分けて示しており、何を学習するか確認することができます。見通しを持って学ぶという視点では、教育芸術社がよいかなと思います。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　音楽の授業については、やはり生徒たちがより感性を豊かにしてほしいというふうに思います。そういう意味では分かりやすく言えば、自分が歌を歌ったり演奏するときには、どう豊かな表情を音に乗せられるかということですし、またそのためにも鑑賞というところでも、その音の表情の変化というのをどう深く感じ取るか、あるいはそれを理解するかということが重要になると思います。その辺も、両社とも工夫していると思います。

例えば、１年生でヴィヴァルディの『春』が紹介されていますが、教育出版社が６ページにわたっていて、それから教育芸術社は４ページで示されている。それぞれ、それぞれの部分で譜面も示しながら、どういうふうに譜面として構成していく、それで表情の変化をつくっていっているかというのをつかみとれるような工夫だと思います。その点で言うと、今お話ししたように、教育出版社は６ページで丁寧にということですし、譜面に割くスペースも多い訳ですが、他方で教育芸術社は、それぞれの部分の譜面の分量としては多くないのですけれども、その象徴的な部分を取り上げていて、全体をうまく対比できるようになっているとも思いました。そういう対比もしながら音を聴き、そして、こういうふうに表情が変化がつくのだということを理解するということがしやすい教科書だなというふうに思って読んでいました。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　知的財産に関する取扱いの記載についてですけれども、最近は、フリーでダウンロードできる音楽コンテンツも多数あり、多くの子どもたちがそういうことをすることに何の抵抗もないといいますか、罪悪感もなくそういうことができるような状況にあるということを考えますと、音楽に対して著作権があるんだという認識を持たせることは非常に重要だと考えます。

その点から教科書を見てみますと、教育出版社の方は、２・３年生の上の７０ページあたりで、そもそも著作権、知的財産権がなぜ必要なのかということに触れて、端的に指導をしております。

一方、教育芸術社の方は、２・３年の下の６４ページあたりですけれども、ＪＡＳＲＡＣにつながるデジタルコンテンツを取り入れたり、「こんなときどうする？」として、自分で事例を考えたりすることができるつくりになっております。情報化社会と言われる時代ですので、しっかりと知的財産について考えることができ、とてもよいと思います。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　同じ楽器でも扱い方が違うことがよく分かります。特に教育芸術社、１年生１９ペー

ジでは、「深めよう　音楽」として、曲想の変化を感じとり、感じたことを基に生徒が学び合うことができるようになっています。

教育出版社、１年生９ページは、視点を絞って、生徒に自分の感じたことを記入させ、学び合いができるようになっていますが、見開きの楽譜の前にその活動が示されていることや、全体像を見せているにもかかわらず視点を絞り過ぎていることが気になります。

○教育長　ありがとうございます。

これまで、西洋の楽曲や知的財産権などの視点からご意見を賜りました。港区出身の作曲家に滝廉太郎がおりますけれども、日本の楽曲についてのご視点ということにではいかがでございましょうか。

○中村委員　滝廉太郎の楽曲としては、どちらの教科書も『荒城の月』を扱っております。開いたときに曲の情景が浮かぶような写真が印象的です。短調の旋律が美しい独特の雰囲気が写真からも伝わってきます。教育出版社は４ページ、教育芸術社は２ページでの扱いになっていますが、教育出版社の方は、滝廉太郎の別の楽曲『花』にも触れています。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　今の『荒城の月』については、実はどちらの教科書もその後、山田耕筰が編曲をした、著作したものが併せて紹介されていて、それは実は微妙な音の下がり方、リズムの形などの違いがある訳ですけれども、教育出版社はそれを別のページに、巻末に収めているという形をとっていて、教育芸術社の方は、もともとの滝廉太郎の譜面が上段にあって、そしてページの下半分に山田耕筰の譜面があるという形で、どう元の原曲とそれから山田耕筰の編曲で変わっているか、それを対比できるようになっています。その両方の音を聴きながら、どういう違いがどういう工夫によって生まれるかということを感じ取ることもできるという訳です。そういう対比をするという視点で言えば、１ページにあえて収めた教育芸術社の方が分かりやすい工夫だというふうに思いながら読みました。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　今回、教員からの視点で意見がありましたが、教科書選定研究委員や学校研究では、教育出版社は曲や楽器の説明などが詳しく書き込まれていて、生徒が自宅等で自分で学習を進めていることに適しているとの意見がございました。やはり詳しく様々な記載がある分、一つの教材の取り扱いページ数も多いのではないでしょうか。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　一方では、細かい解説というものを重視するというよりも、音楽の場合は教員自らが授業づくりを進めやすい教育芸術社の教科書の方がよいという意見も現場から上がっているようです。また、教育芸術社はシンプルなつくりで、教員の裁量で工夫した授業が展開できるという意見も上がってきております。

ここで確認したいことがあります。現在、港区立の中学校１０校では音楽科の教員は全校に配置されているのでしょうか。

○教育指導担当課長　港区では、音楽科の教員が全校に配置されています。なので、音楽の専門性を持った教員が生徒を指導しているという形になってございます。

○教育長　ありがとうございます。

先程来、教育出版社の方が指導事項や音楽に付随する情報量が多いというふうに感じてございます。音楽を専門としている教員が指導することを考えるのであれば、指導内容を取捨選択して指導することができる教育出版社の方がよいような気もしますけれども、教員の視点という点ではいかがでございましょうか。

○教育指導担当課長　教員の立場からいたしますと、経験年数が浅い程、指導事項が丁寧に記載されている方が指導しやすいと感じていると思います。しかし、専門性が高い教員にとっては、生徒の実態に応じて授業をつくっていくことができますので、教科書の指導のポイントを基に授業を構成して、創意工夫をしやすい教科書の方がいいのではないかなというふうに考えております。

○教育長　ありがとうございます。

授業をする教員の高い専門性を鑑みることも大事だということが分かりました。

そのほか、いかがでございましょうか。

○山内委員　港区は、音楽鑑賞教育も３年生の秋に実施をしていて、サントリーホールでオーケストラの演奏を直接に鑑賞することができる、そういう非常にいい機会を持っている訳です。そういうことにも活用できるといいと思いますが、一方で、あまり説明的過ぎても使いにくい場合があります。やはりそれはその先生方がうまく教科書を使った授業と実際の楽曲とをつないでいくということが必要になると思います。例えばオーケストラについても、その編成のこととか、それぞれ教科書にありますし、また、オーケストラの表情をどうつくるかという意味では、指揮ではどういうところを工夫しながら行っているか、そういう説明もあります。そういうものも結局はどう生かすかも、あるいはそれを使わずに独自でなさるかも、その現場の先生方次第で、ぜひそういう現場の方が使いやすい教科書を選ぶということでよろしいのではないかなというふうに思います。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　私は、教育芸術社の１年生の２０ページにありますが、「Ｍｙ　Ｖｏｉｃｅ！」というのがとてもよいなと思いました。合唱コンクールなどが各校ある中で、変声期を迎える男子生徒がどのように歌声を出せばよいのかということは非常に興味深い内容になっております。変声期においてきれいな歌声を出すというのは難しいかもしれませんが、知識として、どのように歌えばよいのかということを学ぶことができるのは重要です。

教育出版社の方も１年生の２４ページあたりで扱っていますが、簡潔にどう歌えばよいのか、何に気をつければよいのかを記載し分かりやすいのは、比較すると教育芸術社の方がよいようには思います。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　ちょうど中学生のこの時期は男子生徒にとって変声期というものが必ずよけては通れないところであります。成長の中で必ず戸惑うことであります。しっかりと指導し、実際に役立て

ていくことができるのが大事だと考えます。

私もポイントを絞って大事なことを伝えている教育芸術社の方が分かりやすいと考えました。

○教育長　ありがとうございます。

選定資料等を基に、教科書ごとに内容の取り扱いなど、様々な視点からご意見をいただきました。同じ曲を比較する中で、指導内容がシンプルにまとまっていることで生徒が見やすく、学習内容に興味を持ったり、自分の考えを持ちながら取り組んだりすることができるほか、教員が生徒の実態に合わせて授業を創意工夫していくという視点などにおいても教育芸術社の教科書が適しているのではという意見が多かったように思われます。

音楽（一般）につきましては教育芸術社の教科書でよろしいでしょうか。

（異議なし）

○教育長　ありがとうございます。

それでは、音楽（一般）につきましては教育芸術社に決定をいたしました。

引き続き、音楽（器楽合奏）の教科書についてご意見を伺います。

○中村委員　教育出版社、それから教育芸術社とも、洋楽器と和楽器をバランスよく取り上げているように感じます。全体のバランスは２社とも問題ないと思うのですが、やはり音楽（一般）と同様に、教育芸術社が目次の次に「学びの地図」のページというものを設定しておりまして、学習のまとまり、それから学習内容が整理して記載されているところがいいなと感じました。見通しを持って学習する上では大変よいと思います。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　曲数がどれだけ収められているか、これはある意味で先生方が使いたい曲をどれだけ選べるかということでもあると思うのですけれども、東京都の調査研究資料を拝見すると、教育出版社が３４、それから教育芸術社が２８曲紹介されています。港区という地域の特性を考えても、片方で日本の伝統的な音楽に触れるということももちろん大切で、その日本の文化、音楽の文化に触れるということは大切であり、他方でやはり色々な国の音楽に触れるということも必要だと思います。それも明治期から入ってきたいわゆるクラシックの音楽だけではなくて、もう少し色々な地域の民族音楽も含めて幅広く触れる、それぞれの国にそれぞれの文化にそれぞれの音楽があるということを知るということも大切だと思います。

また、そういう点で言えば、楽器をどういうふうに紹介しているかというのも一つの工夫で、例えば諸外国のといいましょうか、邦楽の楽器でない楽器を教育出版社が８種類、教育芸術社が１５種類の楽器を紹介し、色々な民族楽器も含めて紹介しているというような違いもあります。そういう試みも評価してよいかなというふうに思いました。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　教科書選定研究委員、それから学校研究の意見もありましたが、教育出版社は、基本の曲以外の楽曲が「Ｌｅｔ’ｓ　ｐｌａｙ！」として多く掲載されております。６０ページあたりですが、生徒の興味を持ってアンサンブルを発展させることができるようにつくられております。

一方、教育芸術社の方も７０ページあたりですが、小物楽器の奏法が細かく記されており、アンサンブルの工夫がしやすくなっています。特に小物楽器は、アンサンブルがアクセントになるだけではなくて、小学校の頃からなじみ深い楽器であることから、小中一貫教育の視点でも学びをつなげることができると考えます。

このような視点で見ていくと、港区には教育芸術社の方が適しているのではないかなと思いました。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　私は音の切り方やつなぎ方であるアーティキュレーションの扱いが興味深いです。アーティキュレーションは、旋律に様々な表現をつけることができるので、アンサンブルで活用して豊かな響きを味わうことができます。教育出版社、１６ページと、教育芸術社、２１ページ、どちらの教科書でも様々な奏法の紹介を行っていますが、教育芸術社では、「アーティキュレーションを使って演奏しよう」として、知識を奏法に生かすようなつくりになっていて素晴らしいと感じました。学んだことをすぐに実践するということは、より学びが深まることだと思います。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　それぞれの楽器での譜面の見方を見ると、出版社の特徴というのもあります。例えば、箏曲、お琴の曲のやり方というのも特徴があって、例えば教育出版社の方は基本の曲以外に三つの曲を紹介していますけれども、一つは『もののけ姫』、それ以外にも『さくらさくら』と『こきりこ節』と、つまり日本の古謡、民謡が中心に紹介されています。

一方で、教育芸術社の方は、今も生徒たちに親しまれている曲、『少年時代』とか『なつまつり』というような曲が紹介されているという違いがあります。これはもう、ある意味でどちらをよしとするかは、それぞれの使う人間によってくると思いますけれども、どちらを選ぶにしても、どうその足りない方を補うかということをしながら活用していただければいいのではないかというふうに思っています。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　音楽（一般）でも話が出ていましたけれども、専門性を持った音楽科の教員が指導するということを前提に考えるべきだと思いますので、生徒が楽器や楽曲に興味を持って学びをつくっていくことができるという観点で見れば、やはり教育芸術社の教科書の方が教員の創意工夫が様々できそうな感じがするので、よろしいのではないかと考えます。

○教育長　ありがとうございます。

事務局に確認ですけれども、音楽（一般）と（器楽合奏）の方は、教科書会社が違っても大丈夫でしょうか。

○教育指導担当課長　教科書は音楽（一般）と（器楽合奏）で違う教科書会社を採択しても問題はございません。しかし、一貫性のある指導を行うことができることや、１年間を見通して年間指導計画を立てることができるので、できれば同じ教科書会社の方がよいというような現場の意見もいただいています。

○教育長　ありがとうございます。

委員の皆様方からのご意見、そして今の現場の教職員の意見ということも踏まえて、港区においては、教育芸術社の教科書が実態に合っているという意見が多かったように思います。

それでは、音楽（器楽合奏）については教育芸術社の教科書でよろしいでしょうか。

（異議なし）

○教育長　ありがとうございます。

それでは、音楽（器楽合奏）につきましては教育芸術社に決定をいたします。

次に、美術の教科書についてでございます。今回の学習指導要領改訂のポイントとしては、美術科で育成する資質・能力が生活や社会の中の美術や美術文化と豊かにかかわる資質・能力として示されてございます。表現の学習では、生徒自らが強く伸ばしたいことを心の中に思い描き、豊かに発想や構想をすることを重視するということになってございます。また、鑑賞の学習では、作品の良さや想像力のたくましさなどを感じ取り、心を豊かにするとともに、作者の心情や表現の意図や工夫、生活や社会における美術の働きや美術文化について考えることを一層重視してございます。

それでは、ご意見を伺いいたします。

○山内委員　今回の教科書を３社、見比べましたけれども、紹介された作品数も６００程度と、非常に多くの作品が紹介されています。しかも多様な表現のものが紹介されているということに関して、作品のイメージがなかなか浮かばないという生徒にとっては、こういう表現の仕方もあるのかということを知るのは、発想をする上では意味があるのではないかなというふうに思っています。やり方は出版社によって少し違いがあって、同じ年代の生徒がつくった作品を中心におそらく意図的に多く扱っている出版社もあれば、あるいは少し商業的なデザインの部分を多く扱っている出版社もあれば、センスがいいなというようなものを中心に選んでいる出版社もある訳で、そういう差があったことは事実ですけれども、いずれにしても多様な作品が紹介されていて、生徒の発想を刺激するという意味では、どれも工夫がなされているという印象を受けました。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　私は、開隆堂の教科書は学習の目標が新しい学習指導要領に合わせて３本の柱で構成されているので、教師にとっても生徒にとっても、何をどのように学べばいいのか分かりやすいと思います。

また、題材の学習のポイントには、「伝え合おう」「考えてみよう」など、造形的な見方・考え方を働かせるための造形的な視点で見たり考えたり話し合ったりする内容になっていて、主体的・対話的で、深い学びの実現に向けた工夫がされているところがよいと思います。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　私は、光村図書の内容を見てみましたけれども、各題材の初めに「鑑賞」というコーナーを設定して、発想・構想やみんなの工夫の小見出しをつけることで、表現と鑑賞の関連を図っているところは工夫されているなと思いました。

また、体験的に学ぶことができるよう、原寸大の作品を掲載したページや、鑑賞作品の上にトレ

ーシングペーパーをとじ込んで、一点透視図法を書き込めるようになっていたり、版画作品には粗い和紙を使用したりするなど、使いやすさを念頭に置いた様々な工夫がなされているなというところが印象的でした。

○教育長　ありがとうございます。

表現の学習では、生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描き、豊かに発想や構想をすることを重視してございますが、その点についてはいかがでしょうか。

また、美術では、制作の際、発達段階に応じて様々な工具を使い、取り扱いを注意しなければいけないというような危険な工具もございます。技能の習得や安全への配慮の観点からはどんなふうに見てございましょうか。

○中村委員　生徒が強く表したいことを思い描けるように工夫されているのは光村だと思います。美しく表現するとか写実的に表現するとかということよりも、自分の作品を通して自分の考えを他者に伝えるにはどのような材料を使ってどのように表現すればいいのかということを考えさせる思いが至るところに示されています。自分の考えをはっきりと持たせてから発想や構想を抱かせることは表現活動にとっては重要だと思います。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　まず、技能の習得とか安全という点で言えば、工具の使い方も各社とも巻末の資料などに分かりやすく説明されているというふうに思いますし、さらにＱＲコードなども掲載されていて、教科書で不足している部分も確認できるようになっている、そういう工夫がされているということを確認しました。

あと、表現という点で言えば、やはりどう表現の幅を広げるか。それは観察力を刺激するということだけではなくて、そういう豊かな表現力を育むかという点で、私は例えばディカルコマニー、ドリッピング、あるいはコラージュというようなものは自分でも好きなのですけれども、ある種の偶然も使いながら新たな表現をしていく、そういう教育は好きなのですけれども、それもそれぞれ１年生のところで紹介されたりしています。ただ、併せて、その技法だけではない、紹介されている作品なども含めて見ると、光村図書が私の主観で言えばセンスのいいものがうまく選ばれているという印象と、それから今の中学生であれば子ども時代に知っている『はらぺこあおむし』の絵本、それも実はコラージュを使っている訳ですけれども、それが実際に紹介されている。つまり、子ども時代の絵本の体験ともつながる形で手法が紹介されているというのもいいことだというふうに思いながら読みました。

○教育長　ありがとうございます。

今回の学習指導要領の中には、美術、芸術、美術文化に対する見方や感じ方を深めることについても示されてございますが、この観点についてのお気付きの点はございましょうか。

○田谷委員　光村図書の話になるのですが、１年生の３０ページから３５ページで「風神雷神」を取り上げ、初めに風神雷神像を鑑賞したのち、風神雷神図屏風を鑑賞する流れになっています。さらに、作者の違う風神雷神屏風図を３種類掲載し、それぞれの共通点や相違点を話し合うことで、

それぞれの作品の良さに気付けるようになっています。

また、古典文学と屏風絵の関係について触れ、国語科との関連を意識できるようになっています。今回の学習指導要領改訂の際に、教科横断的なカリキュラムマネジメントの重要性が示されているところでありますので、このような他教科の学習とのつながりを意識できる構成になっていることはよいことだと思っております。

○教育長　ありがとうございます。

様々な意見をいただきましたけれども、今回の改訂の趣旨を踏まえて、様々な工夫がされている光村図書の教科書を推薦する意見が多かったように思います。

美術につきましては光村図書の教科書でよろしいでしょうか。

（異議なし）

○教育長　ありがとうございます。

それでは、美術につきましては光村図書に決定をさせていただきます。

次に、保健体育の教科書についてでございます。学習指導要領の改訂では、生徒がどのように学ぶかということを大切にしてございます。また、体育分野のパラリンピックの意味や価値、あるいは保健分野のがんが加わるなどの内容の改訂もありました。また、保健分野の感染症とその予防を扱った内容については、新型コロナウイルス感染症対策に直結する内容になってございます。特に留意したいと考えてございます。

それでは、ご意見をお伺いいたします。

○山内委員　４社とも、生徒がどのように学ぶかということを大切にしている、問題解決の道筋や方向を巻頭で説明しているというところも今回、強調したところです。ちょうど時節柄といいましょうか、感染症と予防を扱った単元を例にしながら、生徒がどのように学ぶかというところを見ても、例えば学研は、南極は風邪にかかりやすいのかどうかということを比較点にしながら学習を始めるということをして、さらに学研は、感染症についての理解とその予防までを一まとめで扱うというようなことをして、ある意味で予防、問題解決のプロセスまでが分かりやすく示されているというふうに思います。

一方で、例えば大日本図書も同じように問題解決型の流れの中で、単元の初めに「つかもう」というキーワードが設定されていて、主体的に、ある問題意識を持って取り組めるようにということになっています。また、最後のページで文章と表やグラフというのをうまく使い分けて解説しているというのも分かりやすさが増しているというふうに思いました。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　季節柄、今回はこの保健体育については私も大変興味深く拝見させていただきましたが、大修館と大日本図書は、様々な感染症の例を写真で示しています。１３３ページ、両社とも偶然同一ページなのですが、新型コロナウイルスはどんな形をしているのだろうと、深い学びに続いたり、ウイルスの複雑さはよく理解できると思います。

東京書籍は、感染症が流行するのはどんなときかと問いかけ、病原体と社会環境の関係について

考えるよう促しています。また、この部分で、セントルイスの市長が出した緊急事態宣言が死者を最低限に抑えたということを示し、その効果を考えるように構成しています。現実に緊急事態宣言を体験した生徒たちなので、その良さと同時に困るところも考えることができるよい教材になっています。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　私は、今、田谷委員が言われた視点で見ますと、大修館の学習の進め方がよいと思いました。課題をつかむ段階で、小学校の体育科の保健領域、病気の予防の単元で学んだことを丁寧に振り返っています、これ１３４ページですけれども、そして次のページでは、同じように病原体が侵入しても症状が軽い人と重い人がいるという疑問について考えて、最後に抵抗力を高めるため、家庭生活では自分がどんなことを心がけるのか、授業が終わっても考えさせる工夫がなされております。これは１３７ページです。また、大日本図書と同様に病原体の写真をたくさん使うことで、様々な病原体があることに興味を持たせようとしているとともに、感染経路をフロー図で表したり、免疫の仕組みを擬人化したモデルで表したりして、非常に工夫をしているというふうに感じました。

○教育長　ありがとうございます。

今、まさにコロナ感染症の拡大ということで、保健分野の感染症とその予防を扱った単元を通して生徒がどのように学んでいくのかという視点でご意見がございました。その中でも、大修館がほかと違うという意見が中村委員の方からございました。

一方で、体育分野についてもご意見をお伺いしたいと思いますが、いかがでございましょうか。

○田谷委員　体育分野で申し上げますと、東京書籍は口絵で、パラリンピックの四つの価値について紹介するとともに、第一線で活躍しているパラリンピック選手を紹介しています。

大日本図書も同じように口絵で「スポーツはみんなができる,みんなをつなげる」と表現し、様々な競技種目を紹介しています。

学研においては「スポーツで世界を一つに」と表現し、スポーツには様々な魅力があることに気付かせています。オリンピックはもちろんですが、パラリンピックを通して学ぶことができることも多いと思います。

大修館では、口絵の１ページに「オリンピック・パラリンピックに世界中の人が注目！」と題し、オリンピック・パラリンピックに関連した写真を多く取り入れています。特に、パラリンピアンを技術者が支えている姿や、「共に生きる」と力強く書かれたページは、保健体育の見方・考え方を育むことにつながると思います。このことから、運動離れ、運動の二極化が危惧されているこのようなとき、教科書によって保健体育の見方・考え方が一層深まってくると思います。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　みんながスポーツと言うときに、狭い意味での競技スポーツ、あるいはトップアスリートが行うような、あるいはそれを目指すようなスポーツだけではなくて、やはり多様な楽しみがあるということと、それから子どもの時代から老年期、高齢の時代まで、そのライフステージに応じた楽しみがあるということをうまく知り、そしてまた自分なりのその生涯に向けてのスポーツラ

イフを感じ取る、考えるということは非常に大切なことだと思います。どれもそういうスポーツの多様な楽しみについては比較的よく書かれているという印象を受けました。ただ、例えば大日本図書は、豊かなスポーツライフというのが、生涯にわたって運動やスポーツを楽しむ、せっかく図を用意しているのに、「これまで」「中学校」それから「これから」というのが高校から成人で、ある意味で身体機能がどんどん落ちていく段階でのスポーツというのが全然書かれてないのはちょっともったいないなと思ったり、やはりそれぞれの一長一短があるのは事実です。

もう一つは、スポーツというのが、よく三つの間と言いますけれども、時間、空間、仲間、その組み合わせの中で豊かに広がっていくということがあって、それも、それぞれ図などを使って書かれていますが、その中で比較的分かりやすく書かれていたのは大修館だったと思います。例えば東京書籍などは、これからあなたのスポーツライフを考えましょうと、１０歳代から６０歳代まで、それぞれの段階で、どういったものをどこでどのようにというような形で、自分でそれを描いてみるというようなページをつくっていて、こういう試みもそのライフステージにおいて、その三つの間を豊かに生かすということを考える入口としてはよいのではないかと思いながら読みました。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　大修館の教科書では、運動会でのかかわり方を事例にして、多様なかかわりがあることが示されております。９ページになりますかね。この事例は、子どもたちにとっては非常に身近に感じ取れるものではないのかなと思います。

それから、大日本の方は東京マラソンを例に挙げて、四つのかかわり方を大きな写真で示しております。これも７ページです。しかし、左側が文、右側が写真や図で示すことにしていることで、文と写真の関連を図るのがやや難しくなってしまっているように感じます。

その点、学研は文章とイラスト、写真が対応していて見やすいです。１８ページ、１９ページあたりです。

○教育長　ありがとうございます。

これまでの皆さんのご意見をお伺いしますと、学研と大修館の２社に絞られてきたようですけれども、委員の皆様、いかがでございましょうか。

○中村委員　大修館は、港区でも事故対応等の参考にしているＡＳＵＫＡモデルについて、コラムで扱っております。１１１ページあたりですか、港区の生徒に適した内容になっております。

一方で、新しく加わったがん教育の部分では、学研は、課題をつかむというところで、がんのイメージをつかんで考える、調べる、そしてデータから考える、まとめる、深めるというところで日常化につなげるという学習の道筋が分かりやすくなっております。

大修館は「課題をつかむ」で、がんについての誤解を解き、「身につける・考える」で、資料を使って学ぶ、「学習のまとめ」でグループで話し合うという流れになっております。

学研の教科書のまとめ方は、課題を継続し家庭に場所を変えて考えさせるという視点から考えると、よくつくられているように感じます。ただ、大修館は、がん教育については他社とは少し構成が変わっております。それが気付いた点です。

以上です。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　確かに学研の学習の流れもしっかりと考えられています。しかし、中村委員がおっしゃったとおり、大修館ではがん教育について、見開き２ページで、「がんとその予防」について学習し、その後１ページで「がんの早期発見とその回復」まで学習します。ここまでじっくりと回復を扱っている教科書はほかにありません。また、回復の部分の「学習のまとめ」は、保護者の健康診断を促すメッセージづくりをします。しっかりと学習を家庭生活に生かす工夫がされています。他の小単元でも大変丁寧に教材を扱っているということが印象になります。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　私も両社の読み比べをしましたが、例えば中村委員がおっしゃったＡＳＵＫＡモデルということですけれども、いわゆる心肺蘇生のベーシックな方法というか、ベーシックライフサポートと言われる方法の教育ですけれども、この二社を読み比べてみて、実際の方法をどう分かりやすく伝えているか。つまり心肺蘇生の方法というのができるだけ簡潔に、ある意味で必要な情報が見やすく書かれているということが重要な訳ですが、その点では大修館の方が見やすい、分かりやすい。非常に重要なところをシンプルに、その必要なプロセスを書いているということも評価できると思いました。また、ＡＥＤを使ったことでどれだけ生存率が上がるかということも具体的にグラフもつけて説明しているという点でも、限られたページの中ではよく書かれているという印象を受けました。

それから、がんの話がありましたけれども、例えば喫煙の問題というのが重要になる訳ですけれども、両方とも喫煙の影響というのは書かれていますが、例えば大修館は喫煙と肺がんの関係というのを喫煙開始年齢と肺がんの死亡率のグラフで示しています。学研は、喫煙の期間と肺がんの危険性という形で示している訳です。おそらく喫煙の期間と肺がんの関係を示すのは、例えば３０代、４０代の人に示すのは、まだ今やめても意味があると理解してもらうのにはいい訳です。一方で、中学生にはやはり開始年齢を示した方がより説得力があるという訳で、やはり年齢に応じた題材の選び方、資料の示し方というのはあるのだろうと思います。その点で言えば、大修館の方がその辺も配慮されているというふうに思いました。

それから、やはり中学生の段階で薬物乱用の怖さということを知っておいてもらう必要がありますけれども、その点も、大修館の方がそれぞれの薬の名称を俗称も含め書かれ、また、それによって起こる影響も具体的に書かれていますし、さらにその悪影響が、依存と急性中毒、慢性中毒、フラッシュバックと、重要な点がきちんと図示されているという点でも評価できるのかなと思いました。

あと、大修館でもう一つ私が見ていていいものが書かれていると思ったのが、ストレスというものへの対処方法です。特に大修館で書かれていたのが、ストレスへの対処の仕方として、ストレスの受け止め方というのですかね、心の癖というものを見つめ直そうという頁があります。ちょうど５４ページに「ストレスを増大させる心の癖」というのがあります。何かの出来事があった時の受

け止め方は一人ひとり、それぞれに違っているその受け止め方によっては気持ちは悪い方に行く、そこでその受け止め方の癖、そういうものを見直していかなければというページがある訳です。これは、今の日本の中でも広く使われていて、非常に効果のある、そして広く評価されるようになってきた認知療法の基本的な考え方であって、それは実は個人でもそれぞれ自分で行えるものだということで、評価の高いものなのですけれども、その視点がきちんと盛り込まれているという点では、感心をしながら読みました。

○教育長　ありがとうございます。

皆さんの意見を踏まえますと大修館ということにまとまったように思いますけれども、保健体育につきましては大修館の教科書ということでよろしいでしょうか。

（異議なし）

○教育長　ありがとうございます。

それでは、保健体育は大修館に決定をしたいと思います。

次に、技術の教科書についてでございます。学習指導要領の改訂では、生徒がどのように学ぶかということを大切にしてございます。特に、応用について考える場面では、社会からの要求、そして安全性、環境負荷や経済性等を踏まえた最適化の視点等を重視した学習を充実させることが求められております。具体的には、自動車は速さだけでなく、安全でエコで低価格にするよう、複数の視点からの検討をする必要があるということでございます。

それでは、ご意見等を伺いたいと思います。

○山内委員　一人ひとりがどう学ぶかということを考えると、教育図書は例えばスマートフォンスタンドの制作とか、ある意味身近で物をつくるということ、物づくりへの興味を持ちやすいような題材を取り上げている印象もありますし、それから、各領域で、いわゆるスゴ技という形で各分野で活躍するような職人の技というのを紹介していて、そういうのも面白い視点だと思います。

東京書籍は、どのように学ぶかのヒントになるのですが、巻頭のところで思考ツールが紹介されている。それからまた、これも巻頭で技術の最適化とは何かということが丁寧に説明されていて、さらにその次に問題解決のプロセスとしてＰＤＣＡのサイクルが紹介されている。いわゆる日本の特色であって強みであった品質管理の重要な考え方、視点が盛り込まれているということ、それがしかも巻頭にきちんと収められているということでは、評価できるのではないかなと思いました。先程、別の科で申したように、思考ツールについてもう少し丁寧な説明があればもっといいのにと思いますけれども、それでもそういう考え方がきちんと盛り込まれているというのは評価できるというふうに思います。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　ただいまの山内委員の意見で、開隆堂の工夫も生徒の主体的な学びにつながります。しかし反面、職人の技などが示されないことで、職業に対する意識を育てることは難しいのではないでしょうか。

東京書籍は各領域に、技術の匠として活躍する職人を複数紹介しています。教育図書と同じよう

に、キャリア教育としても、専門の技術と実際の職業を関連づけてイメージしやすい構成になっています。

また、教育図書のハンドブックはとてもよいと思います。巻末に持ち運びがきくハンドブックに技術がまとめられており、家庭でのＤＩＹにも活用できるため、生徒の主体的な学びが期待できると思います。私も持ち歩きたい内容がたくさん掲載されております。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　少し視点を変えると、学習指導要領の技術・家庭科の目標には、よりよい生活の実現や、持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し、創造しようとする実践的な態度を養うということがあるのではないかと考えます。そういうことから考えますと、学校での学習から興味を継続して、家庭生活でも学ぶことのできる教科書の方がいいかなと思います。その点では、教育図書のハンドブックは、今、田谷委員からもお話がありましたが、大変よい工夫だと思います。

ただ、私は東京書籍の工夫も見ていただきたいなと思います。課題設定の中で、生徒がこうだ、こうしたいと思ったことに寄り添うように、「ＴＥＣＨ Ｌａｂ」として大きな写真やイラストと充実した手順が掲載されています。５０ページあたりですかね。課題に沿って１人でも学習を進めることができる、そういうような内容になっています。

○教育長　ありがとうございます。

どの教科書も､生徒自らが主体的に学びということを意識してつくられているようでございます。課題についても触れられましたが、授業での学びを、技術科の見方・考え方を育てて、社会でより深い学びにしていくために、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等を踏まえた最適化の視点が重要だというふうに考えてございます。この点についてはいかがでございましょうか。

○田谷委員　ただいまおっしゃられました点について、どの教科書も材料と加工の技術の単元は、初めに木材、金属、プラスチックの加工について素材の特性を学び、次に生活の中で困っていることから問題発見、課題設定をし、実習の中で様々な技術を駆使して課題解決に向けた試行錯誤をします。その後、問題解決の評価、改善、修正をした上で、社会の発展に目を向けて考えていこうという流れになっています。最後の社会の発展を扱う場面で、各教科書によって大きな違いが見られます。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　今、言われた問題解決のプロセスというところ、これが社会の発展にどう寄与するかというような視点は非常に重要だと思います。先程申したような最適化ということを例にしてもそれぞれに書かれていますが、例えば開隆堂などは、最適化という言葉を使いながら参考の事例を紹介するという形をとっています。

そういうものをもっと前面に押し出しているのが東京書籍です。東京書籍は冒頭で最適化のことを説明した上で、その視点から、いわゆる各章の見出し、節の見出しの中として「何々の最適化」と、見出しに最適化という言葉をはっきり打ち出しながら、その思考のプロセスを説明しているという訳です。中学生たちが将来、色々な分野で活躍するときに、様々な要件を前提に置きながら、

その中で最適なものをどう考えて、最適な物をつくる、最適なサービスをつくる、そういう思考を持つことは大事ですから、それがこの本を通して強調されているという点では、しかも分かりやすく示されていて、私は評価できるというふうに思っています。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　今、山内委員がおっしゃられたように、東京書籍はどの領域でも必ず同じ場面で最適化について考えさせるような構成にしております。巻頭でも、最適化について見開きで扱うなど、生徒が思考するのに十分な資料を用意しております。また、教育図書と同じように目次でもこの学習の流れが大変分かりやすく示されていて、生徒から見ても学習の道筋が分かりやすくなっていると感じました。

○教育長　ありがとうございます。

いかがでしょうか。これまでの意見から、東京書籍が生徒の興味関心を高める点や最適化について考えを深めるという面で非常によいという意見が多かったように思います。

技術につきましては東京書籍ということでよろしいでしょうか。

（異議なし）

○教育長　ありがとうございます。

それでは、技術の教科書につきましては東京書籍に決定をさせていただきます。

次に、家庭の教科書についてでございます。今回の学習指導要領の改訂におきましては、少子高齢化などの社会変化や、持続可能な社会の構築など、これからの社会の急激な変化に対応することができる資質・能力の育成を目指してございます。

それでは、ご意見をお伺いいたします。

○中村委員　家庭科は、やはり全科目の中でも最も日常生活に密着している、あるいは直結しているという教科だと思います。そうなりますと、家族あるいは家庭生活の機能、それから幼児との触れあい、高齢者の介護など、これから生徒が経験していく社会の変化の中で、生涯にわたってよりよい日常生活をつくり上げていく実践が豊富に記載されているという教科書はどれなのだろうかという視点で採択すべきだと考えます。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　ただいま中村委員の言われた視点で申し上げますと、３社とも写真や図、説明が掲載されており、港区の中学校３年生が幼稚園児へ実施している保育実習の手順が丁寧に書かれています。一例を挙げますと、東京書籍では２４２ページから２４５ページ、教育図書では６２、６３ページ、開隆堂では４５から４８ページに幼児との触れ合い体験について掲載されています。生徒が幼児とのかかわりを写真で観察しながら、よりよく幼児とかかわっていく計画を立てていく資料となっています。教科書会社ごとに本文や参考資料の量が異なっていますが、具体的には東京書籍の方が細かく書かれていると思います。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　今回の改訂を見ると、いわゆる日本の伝統的な生活ということも扱われている訳です。

食生活で言えば、食育の充実とか和食の調理、そういうのも大事にしないといけないということがある訳です。調理実習のために色々な材料といいましょうか、メニューなどもそれぞれの教科書に詳しく載っています。ただ、これは小学校の教科書のときも言ったかもしれないですけれども、教科書会社の方が聞いていればぜひと思うのですけれども、調理の実習例と健康教育とがもっと直接的に結びつくような工夫ができたらもっといいのになと思います。きっとそれは現場の先生方がされてくださることだと思いますけれども、やはり家庭科というのは、生活の中でそれぞれのものをどうより健康的なものに結びつけるか、健康教育の視点も入ってきたらいいなというふうに思いながら読みました。

その他もろもろ一長一短、各社ありますけれども、その中で港区の先生方が一番使いやすいというものを選んでいただくのがいいのではないかというふうに思います。

○教育長　ありがとうございます。

家庭の教科では、消費生活全体を通した持続可能な社会の構築について考えて見直し、そして工夫をしていくことも重要でございます。その点についてはいかがでございましょうか。

○中村委員　３社とも、買い物など日常生活の事象を切り口にして、消費者としての意識を高めようという記載はなされています。さらに、これまでの教科書にはなかった、消費者被害の背景と対応についても取り扱うようになっています。具体的には、東京書籍では１９２ページから１９５ページあたり、教育図書では２５４から２５７ページ、それから開隆堂では２４６ページから２４９ページあたりにそのことが記載されています。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　消費者被害の背景と対応についてという点で申し上げますと、３社とも「やってみよう」という学習課題に、キャッチセールスのロールプレイングが取り上げられています。東京書籍の１９２ページと教育図書の２５４ページには、生徒が道を歩いているときにアンケートを頼まれた場合、どのように応えるかを考えさせる場面が設定されています。開隆堂の２４７ページでは、アンケートの記入の場面から、その後、商品を契約してしまった場合のやりとりも記載されています。３社とも生徒たちに悪質商法の特徴に気付かせ、どうするべきだったかを考えさせる教材となっています。

東京書籍は消費者トラブルについても多くの図などを活用して説明しています。今後、子どもたちが社会人として自立していき、消費者被害に遭わないようにするためにも、契約行為についてはぜひとも理解しておいてほしいと思います。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　今の、持続可能な社会という視点での教育というのも重要になる訳ですけれども、例えば環境への配慮ということも各社、記載されています。それを少し比較してみましたけれども、東京書籍は、１５４ページのところから、持続可能な衣服の生活を目指していくということで紹介されていて、それから教育図書も１７１ページに、より計画的に活用できるようにというところで紹介されている。それから開隆堂は、２６０ページのところで、全体としては消費行動と環境に与

える影響という中で説明をされています。

そういう中で言えば、例えば東京書籍は、実は江戸時代からそういう循環型の社会があったというようなことを示していて、ある意味で、この循環型の社会を考える視点を広げているという点では重要なことだなというふうに思いました。それから、開隆堂も、その消費行動が環境にどう影響を及ぼすかという中で、いわゆる減らす、リデュースとかリサイクル、リユースというような、最近カタカナがよく使われますけれども、そのサイクルのことが紹介されています。そういう広い文脈の中で示されているという点ではいいのかなというふうに思いながら読んでいました。

○教育長　ありがとうございます。

そのほかは、いかがでございましょうか。

○中村委員　どの教科書会社も、学習指導要領に示されている住生活について当然のことながら取り上げている訳ですけれども、地域の様々な災害への備えや、新しい日常生活に向けた住環境の指導なども各学校で充実させてほしいなと思います。

○教育長　ありがとうございます。

皆様からのご意見をまとめさせていただきますと、東京書籍が図などを活用して、より丁寧な説明がされているほか、参考となる資料が掲載されており、子どもたちの学びを広げ、日常生活で実践できる教科書という意見が多かったというふうに思ってございます。

家庭につきましては東京書籍でよろしいでしょうか。

（異議なし）

○教育長　ありがとうございます。

それでは、家庭につきましては東京書籍に決定をさせていただきます。

ここで教科書の入れ替えの時間になるのですけれども、皆様にお諮りしたいのですが、だいぶ時間がオーバーしておりますけれども続けてやりたいなというふうに考えてございますが、いかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

それでは、しばらくこのままでお待ちいただければと思います。入れ替えをお願いします。

それでは、続けさせていただきます。

次は、外国語の教科書について採択をさせていただきます。今回の学習指導要領の改訂では、従来の「話すこと」は、やりとりと発表の二つに分けられました。また、即興で伝え合うことが示されてございます。実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮した題材を備えることが求められてございます。

それでは、ご意見を伺いたいと思います。

○山内委員　今、教育長が紹介されたように、即興で伝え合うことなど、英語が知識を持つのが目標でなく、活用型の教育へということで転換をしている訳です。そういう意味で、教材でもそういう視点からどういう配慮がなされているかということを見ていく必要があると思いますし、他方で、やはり文法とか読解とか、そういうしっかりした文章の構造を理解して表現できるようにするということも丁寧に行う必要があり、その両面がどうバランスよく教科書の中でうまく扱われているか、

しかも中学生にとって分かりやすくそれが配置されているか、そういう観点から見ていかなければいけないというふうに思っています。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　東京書籍については、１年生５６ページの「Ｓｍａｌｌ　Ｔａｌｋ！」でも、即興的にお互いで対話を続けられるようになっています。先程の「Ｌｅｔ’ｓ　Ｔａｌｋ」以外でも、手厚く扱われています。

教育出版では、１年生１３５ページの「Ａｃｔｉｖｉｔｉｅｓ　Ｐｌｕｓ」では、即興のチャットやスピーチ活動ができるようになっているところがよいと思います。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　今、田谷委員が例に挙げられました教育出版の「Ａｃｔｉｖｉｔｉｅｓ　Ｐｌｕｓ」には、赤色のマスキングシートも付属していて、生徒は自分で学習を進めることもできそうです。また、授業開始の導入でも活用できそうです。

あと、三省堂の１年生１０７ページ、「Ｔａｋｅ　Ａｃｔｉｏｎ！　Ｔａｌｋ４」では、場面に応じて即興で伝え合う活動が設定されています。即興でやりとりをするためには、テキストを単に暗記するだけでは十分ではありません。目的や場面、状況に応じて、どう対応をしていくかということが大切になると思います。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　光村図書においては、例えば１年生の巻末に帯教材として、「Ｌｅｔ’ｓ　Ｔａｌｋ」の教材があります。これはとじ込みで、毎回の授業の導入でも使用できます。テーマも自分自身や身近なことについてで、やりとりがしやすいと感じます。

○教育長　ありがとうございます。

話すこと、やりとりについては、場面に応じた即興で伝え合う力が身に付く工夫がそれぞれ各社とも見られるということでございます。

次に、小中の接続という点ではいかがでございましょうか。教科書の展示会にお越しいただいた方のアンケートには、小中の接続が大切だという意見がいくつかございました。小学校１年生から６年間、週２時間、国際科で英語を学習している港区の子どもたちにふさわしい教科書をというふうに考えてございます。この視点についてはいかがでございましょうか。

○田谷委員　港区の子どもたちは、小学校１年生の頃から国際科で英語に慣れ親しんでいる実態があります。また、在住外国人や大使館の多い地域特性などを踏まえ、港区の中学校で英語をどのように学んでいくかが大事な視点だと思います。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　そのような田谷委員の視点で見ていきますと、小学校高学年での外国語科の必修に伴い、１年生の教科書の冒頭では、小学校との接続を意識した工夫がなされていると感じました。その中でも特に東京書籍は、「Ｕｎｉｔ５」までは、各パートの導入として、小学校で学習した表現を使う、話すことの活動を設定しております。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　開隆堂においては、１年生６２、６３ページにあるように、各課の最初に、「Ｓｃｅｎｅｓ」では、小学校で慣れ親しんだ場面を表す漫画を見ながらやりとりを聞く活動が設定されています。左側の二コマ漫画で新出の言語材料がどんな場面で使われるかイメージでき、右側で関連した、聞く、話す、書く活動ができるようになっています。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　学習指導要領では、３年間で使う語句について、従来の１，２００語から、小学校で学習した語に１，６００ないし１，８００語程度の新語を加えた語となっております。取り扱いの語等については、東京都の教科書選定資料によると、全社の平均値が２，１００語程度で、各社、大きな相違はないようです。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　今の語彙という点で言えば、１年生の各教科書を見ると、例えば巻末の資料であったり、あるいは巻末の語彙のリストの中で、小学校で学習した単語、それから新たに加わった単語というのが分かるような印などもつけられているということで、そういう小学校との接続というのを意識しながら編集されているということを今回、各社ともに感じました。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　学習指導要領では、学習する単語についての指定は特にないようです。港区の小学校で採択しているのは東京書籍の教科書ですが、その東京書籍の教科書を見てみますと、一例として、１３３ページにある「Ｄｉｆｆｅｒｅｎｔ」という部分ですけれども、１３７ページでは小学校で習ったマークがついております。他の教科書では、「Ｄｉｆｆｅｒｅｎｔ」は小学校で学習していないこともあります。小学校で学習する語句が中学校できちんと既習扱いになっている、そういう意味での学びの連続性という点から考えると、やはり東京書籍が一番適しているというふうに考えます。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　今の小学校との接続という点で言えば、例えば光村図書は、「Ｕｎｉｔ３」までは本文を漫画のセリフ形式にしたり、生徒が徐々に文字に慣れていけるような工夫になっています。また、三省堂も、特に「Ｌｅｓｓｏｎ３」まで、小学校で学習した内容を踏まえながら、聞く、話す、読む、書くの活動が順に設定されています。ただ、こういうのも港区の場合はかなり丁寧に小学校時代にやっていますので、あまり後戻りしたように見えてもよくない。その加減をどうするかということが実はなかなか重要なところで、せっかくなので、その点は指導担当の課長のご意見をいただきたいと思います。

○教育指導担当課長　委員がおっしゃるとおりで、やはりしっかり身に付いているかなというところをやはり港区の子どもたちは見ていると思います。ですので、全く触れないというよりは、困ったときに触れられるような接続を考えて教科書があると現場も助かるのかなというふうに思います。

○教育長　ありがとうございます。

どうでしょう、構成や分量など、そのほかの視点ということでのご意見はいかがでございましょうか

○田谷委員　活動の数についてです。東京都の教科書検定資料で示された五つの領域について取り扱った活動の数を見ますと、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」これはやりとり、それからもう一つ「話すこと」、発表、「書くこと」の五つの活動がバランスよく取り上げられているのは、東京書籍、三省堂、啓林館です。

活動数が多いものは、東京書籍の「書くこと」で１３０。開隆堂の「話すこと」これはやりとりで１２４。教育出版の「読むこと」で１６０。光村図書の「聞くこと」で２０５でございます。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　学習指導要領には、授業は英語で行うことが基本であることが明記されております。港区では、習熟度別の授業で、生徒の能力に合わせ、オールイングリッシュで授業が行われている学校が多いです。英語の授業のレベルも全体に上がっているので、活動数が多いことは港区の実態には合っていると言えると思います。

先程の東京都の教科書選定資料で示されている発展的な内容を取り上げている箇所数では、全体の平均値が１．５であるところ、東京書籍は７となっております。港区の中学生の英語のレベルには合っているというふうに考えます。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　あと、ほかの教科書会社ももう一回見てみますと、例えば三省堂ですと、「Ｐｒｏｊｅｃｔ」というページが各章に用意されていて、それを見ると、四技能を程よいといいましょうか、総合的に学習してきた能力を活用して表現をしていけるような構成になっています。いわば暗記としての対話練習とか、単語の入れ替えだけのパターン練習にならないような工夫がなされているというふうには思いました。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　光村図書の１年生、１４４ページ、「Ｙｏｕｒ　Ｃｏａｃｈ」では、会話を続けるコツについて紹介されています。そこで、相槌など対応についても触れています。会話のつなぎに必要な表現を紹介しているので、会話の流れを自然にイメージしやすいというふうに思っております。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　東京書籍の学びのコーナーという部分では、学習に役立つ情報を系統的に取り扱っておりまして、生涯にわたり学び続けるための基盤をつくることができる工夫がなされているなというのが印象です。

○教育長　ありがとうございます。

ほかはいかがでございましょうか。

○山内委員　それぞれ色々な工夫がありまして、例えば、日本人が大人になっても時々戸惑うような前置詞の使い分け、それについてのイメージをうまくつかめるような絵をつけて、巻末に収めているのは啓林館ですけれども、そういう工夫がそれぞれの出版社でなされているというのが今回の

特徴だと思いました。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　あと、教科書のサイズについて指摘したいと思います。東京書籍のみＡ判で作成されており、他社はＡＢ判になっております。東京書籍のＡ判は、大きさを生かして、本文や写真、イラスト等の配置にも余裕があり、非常に見やすい印象です。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　サイズが大きい分、持ち運ぶのは大変だろうなというところはありますけれども、どれもそういうスペースをゆったりとっているという中で、色々な工夫がありました。

それで、あとは自分でどういう力が必要で、どういう力がついたかの理解などを把握しながら学習するという意味では、「ＣＡＮ－ＤＯリスト」をきちんと用意してあるというのも、今回の各社の特徴ですけれども、それをざっと見比べると、東京書籍が比較的、小学校で学んだこと、そしてこれから学ぶこととの接続が分かりやすく示されているという印象を受けました。

○教育長　ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員　次に、ローマ字についてですけれども、私のときは大文字・小文字、あと筆記体というのを教わったような気がするのですけれども、今の教科書は筆記体というのは全くない、大文字と小文字だけで構成されているということがございます。

ローマ字については、全社１年生の教科書でヘボン式で取り上げられています。小学校では訓令式に慣れている子もいると思います。そこで、ヘボン式との違いが分かりやすいかどうかで見てみました。訓令式とヘボン式の違いを強調しているのは、東京書籍、１年生１４４ページ。開隆堂、１年生１３８ページ。三省堂、１年付録の９ページです。特に東京書籍は、マスの色を変えていること、右上の吹き出しに、「太字の箇所は特に注意してね」という明記があって、これは親切な表記ではないかと思います。

○教育長　ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員　あと、英語を学ぶ上で、どういうものを読むか、どういう題材を扱っているかということもすごく重要な要素だと思います。各社とも今日的な課題を題材にしたり、あるいは生徒の好奇心を刺激するような、好奇心がありそうな題材を選んでいるというのが全体的な傾向ですけれども、私は特に東京書籍が読み応えのある、社会的な問題を扱った文章を比較的よく載せているのではないかという印象を受けました。例えば２年生のところではいわゆるユニバーサルデザインが題材になっていて、それに関する会話とか読み物だけではなくて、最後はそれに関する解説の方の文章を読む。そして、ロナルド・メイスの「七つの原則」ということにたどり着くというような仕掛けなどの点でも、単に英語を学ぶというだけではなくて、英語を通じて社会的な問題を考える、そのきっかけをつくっている。そういう題材が選ばれているというのは東京書籍の特徴だと思いました。

それからもう一つ、東京書籍と他の出版社の違いが、実は３年生の教科書によく出ているというのが印象的でした。東京書籍は例えばアンケート調査の題材とかグラフとか表が題材に出てきます。他の出版社は実はあまりそれが多くなくて、それが際立った特徴だというふうに思いました。これから中学生たちが将来、高校、大学と英語の資料を読まざるを得ない立場になっていく訳ですけれども、仮に英語が苦手だとしても、グラフとか表がちゃんと読み取れれば、そんなに内容は読み誤らない。そういう意味で、しっかり英語の図表をつかまえるということを中学生の段階から経験させてあげるということは大切だというふうに思いますけれども、そういう点でも東京書籍は評価できるのではないかなという印象を受けました。

○教育長　ありがとうございます。

ＱＲコードなど、デジタルコンテンツという視点から見てはいかがでございましょうか。

○中村委員　動画資料の視聴もできるのは、東京書籍、三省堂、光村図書の三つのようです。開隆堂は導入部分のイラスト動画が見られます。デジタルコンテンツを上手に活用すると、導入でのコミュニケーション活動の充実が図れそうな内容になっているようです。

○教育長　ありがとうございます。

どうでしょうか、皆様からのご意見を踏まえますと、取り扱っている活動数が多く、内容も豊富であることや、学習内容の難易度が高いことから、東京書籍が港区の小学校１年生から週に２時間英語を学習している教員や子どもたちの実態に合っているという意見がございました。

東京書籍を推薦する方が多いということで、東京書籍でよろしいでしょうか。

（異議なし）

○教育長　ありがとうございます。

それでは、外国語につきましては東京書籍に決定をさせていただきます。

最後に、特別の教科道徳についてご意見を伺います。令和元年度から中学校における特別の教科道徳の実施を受け、港区では、平成３０年度の教科書採択で日本文教出版の教科書を採択し、現在２年間が経過してございます。

ご意見をお伺いいたします。

○田谷委員　特別の教科道徳の教科書は、全体的には生徒の思考を深めることができる教材になっていて、人物の生き方や考え方から学ぶことができる教材が豊富であるという印象を持っています。各学校からの研究報告書を見てみますと、令和元年から日本教育出版の教科書を使用し２年目を迎えていますが、別冊ノートに対する評価が非常に高いです。若い教員でも道徳ノートに沿った授業を展開することで記述式となる評価も確実に行うことができるという意見が多いのではないでしょうか。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　今のご指摘は大切で、まだ港区で教科書による授業が始まって日が浅い訳です。そういう意味では、基本的には、今、現場で使っていらして、日本文教出版が使いにくいということであれば別ですけれども、逆にそれが評価がそれなりにされている、そしてまた今度の新しい教科書

も、その日本文教出版の教科書の構成とか内容がそう多く変わっていないということであれば、それを継続して使うというのも一つの考え方だと思いますが、現場の先生方がどう感じてらっしゃるかということを伺いたいと思います。

○教育長　学校現場の声として、事務局の方で把握している内容はございますか。

○教育指導担当課長　現場からは、日本文教出版の教科書については、当初、別冊ノートというのがあることで、このノートの活用をどういうふうに進めていったらいいかなという不安を抱くような意見も正直ございました。しかし、この教科書の使い方に慣れてきた現在では、私も授業とかを見に行ったりしているのですけれども、生徒がノートに記述した自分の考えがあるのですけれども、それを後程評価することが教員もできておりまして、使いやすいという意見もあります。

また、短期間で教科書が変わることについては、今、山内先生からもご心配をいただきましたが、現場からも心配するという意見もあります。ただ一方で、よりよいと思われる教科書があった場合には変えた方がいいという意見もあるということも把握してございます。

以上です。

○教育長　ありがとうございます。

日本文教出版の教科書を使い始めた当初の混乱というお話もありましたけれども、現在は日本文教出版がよいという意見と、もっとよい教科書があればそちらに変更したいという、それぞれの意見が挙がっているということでございます。現場の先生方は他の教科書を実際にまだ使っていませんので何とも言えないところだとは思いますけれども、日本文教出版と比較し各社の優れているところがあれば、それを挙げていただき、比較検討したいと思いますが、いかがでございましょうか。

○中村委員　東京書籍の教科書を見てみると、各教材の最後に「考えてみよう」「自分を見つけよう」という発問を設定しておりまして、生徒が対話的な学びを展開できるようになっています。また、内容項目に沿った題材がバランスよく掲載されているほか、各学年で扱っている郷土愛が充実している印象があります。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　教育出版は、それぞれの題材のところで、文章の最後のところに「学びの道しるべ」という形で、いくつかの問題提起をして、つまり生徒に考えさせる発問をしていくというような工夫があります。それから、巻末にその都道府県にゆかりのある人物とかその言葉というのが全学年で紹介されています。それは見ていくと、なるほどという人も選ばれていれば、こんな人が選ばれているのかとかというのもある、色々な見方はありますけれども、それも一つの親しむきっかけとしてはいいのかなというふうに思いながら読みました。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　光村図書は、新しいＳＤＧｓの視点からの教材が豊富です。各教材でＳＤＧｓを自分のこととして考えるような題材が多く設定されています。また、情報モラルや現代的な課題を扱っている教材が充実しており、「深めたいむ」とのユニット教材として、生徒が情報モラルに関する思考を深めることができるようになっているのがよいと思います。

○**教育長**　ありがとうございます。

○中村委員　学研教育みらいはＡＢ判で写真が多くて、スポーツ選手や著名人など多く取り上げられています。人物の生き方や考え方等から学ぶ主な教材に取り上げられている数が、数で比較すると多く、多様な人物の生き方を通して自分の考えを深めることができると思います。オリンピック・パラリンピック教育にも視点を当てているのが印象的でした。

○**教育長**　ありがとうございました。

○山内委員　廣済堂あかつきですけれども、本冊と別冊の二分冊になっていて、かなり内容の分量が多いという印象を受けました。別冊のノートが教科書で使っている題材に沿っていて、教科書のそれぞれの章の趣旨に沿ってといいましょうか、各テーマに沿ってまた色々な資料が用意されているという形で、ある意味で、学んだことを広げたり深めるという意味ではいいと思いましたが、逆にこれを全部一生懸命やろうとすると結構忙しくなるなというような感じの構成です。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　日本教科書については、全体的に写真や挿絵が豊富な印象です。教材数も比較的多いように思いますが、言葉の意味や人物の脚注が多く、文字のフォントが小さいように思います。ただし、自己実現に向けたキャリア教育を体系的に学ぶようにできる工夫はされていると思っております。

○教育長　ありがとうございます。

○山内委員　先程、ボリュームの話をしましたけれども、光村図書は、そういう点で言えば比較的、教科書の大きさもそうですし、内容もコンパクトにまとまっているというふうに思います。題材もバランスよく、バラエティに富んだものが取り上げられているというふうに思いますし、また、文字の見やすさというのでしょうか、いわゆる文字のユニバーサルデザインということにも配慮をされている。それも評価できる点だというふうに思いました。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　確かに、今、指摘がありました光村図書ですけれども、内容から見ても、いじめを直接的、間接的に扱っている教材が多いなと感じます。

日本文教出版も、同じくいじめの視点で考えると、１年生３６ページ、「近くにいた友」のように、主教材とコラムのユニットで学ぶことで、より深くいじめと向き合うことができるようになっていて、いじめ防止に関する内容が豊富になっております。

○教育長　ありがとうございます。

○田谷委員　日本文教出版の別冊ノートについては、ノートの記述から子どもたちがどのようなことを考え成長しているのかが分かるので、先生は評価もしやすく、スムーズに授業を展開できるのだろうなと感じます。私は引き続き日本文教出版がいいかなと思っております。

○教育長　ありがとうございます。

皆様からのご意見をまとめますと、２年前に採択をした日本文教出版の教科書をご推薦いただく意見が多かったように思います。また、教科書の展示会のアンケートでも、２年前に採択したばか

りの日本文教出版の教科書の継続を望む意見が多いように思ってございます。

いかがでございましょうか。

○山内委員　日本文教出版の教科書は、各教材の最後に、「考えてみよう」それから「自分に＋１」という二つの発問がそれぞれについています。「考えてみよう」は、そこの章で考えたことをもう一回整理し直していくというような方法で、「自分に＋１」というのは、これからどうその問題を解決していこうという、自分がこれからどうしていこうかと主体的に考えられるような発問になっています。そういうふうな形で発問の組み合わせが最後についているというのはよいことではないかと思いました。

○教育長　ありがとうございます。

○中村委員　日本文教出版の教科書は、１年生の９４ページあたりですが、「使っても大丈夫？」というように、情報モラル、特にＳＮＳに関する教材がどの学年でも必ず２教材取り上げられているというのは非常にいいなと思います。これから各中学校にタブレット端末が１人１台配備されることを踏まえると、生徒の情報モラルに関するリテラシーを育むことは大切なことだと思います。

○教育長　ありがとうございます。

田谷委員、いかがでしょうか。

○田谷委員　私は、日本文教出版と各社を比較すると、とても悩むところではありますが、最後はやはり現場の先生方の意見を大切にした方がよいと思います。道徳の評価を行う際にとても役立っているのは、道徳の別冊ノートが大変高い評価を得ているということを踏まえると、道徳の教科書は日本文教出版でよいのではないかと思っております。

○教育長　ありがとうございます。

お３方の意見を踏まえますと、引き続き日本文教出版ということに集約できるように思いますが、いかがでございましょうか。

（異議なし）

○教育長　ありがとうございます。

それでは、特別の教科道徳の教科書につきましては日本文教出版に決定をさせていただきます。

以上をもちまして、令和３年度区立中学校での使用教科書の全てを決定させていただきました。改めて確認をさせていただきます。

国語は光村図書、書写は東京書籍、社会（地理）は帝国書院、社会（歴史）は東京書籍、社会（公民）は東京書籍、地図は帝国書院、数学は東京書籍、理科は啓林館、音楽（一般）は教育芸術社、音楽（器楽合奏）は教育芸術社、美術は光村図書、保健体育は大修館、技術は東京書籍、家庭も東京書籍、英語につきましても東京書籍、道徳は今、決定いただきました日本文教出版に決定いたしました。

以上でございます。よろしいでしょうか。

２　令和３年度区立小学校特別支援学級で使用する教科書用図書（一般図書）の採択について

○教育長　次に、議案の第８５号「令和３年度区立小学校特別支援学級で使用する教科用図書（一般図書）の採択について」審議をお願いいたします。

○教育指導担当課長　それでは、資料ナンバー２を御覧ください。特別支援学級では、小中学校ともに区で採択されました教科書、並びに文部科学省が著作しております「星本」、皆様のところにありますが、こう星が書いてある本でございます。「星本」と言われるもの、さらに市場で一般に市販されている一般図書と呼んでいるものの中から、子どもの実態に応じて選ぶということになっております。本議案は、その一般に市販されております本について採択をお願いするものでございます。義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律の規定によりまして、各区の教育委員会で毎年、採択するものとなっております。令和３年度使用一般図書につきましては、特別支援学級設置校長より、教科用図書として使用するのに適している、これらを使いたい、これを子どもたちに使わせたいというような資料が、こちらの資料２になってございます。調査結果が上げられてきましたので、これらの採択についてご審議をいただきたくお願いしたいと思います。

以上でございます。

○教育長　ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等はございましょうか。

○田谷委員　特別学級の個々の生徒の現状は現場の先生方が一番よく分かっている訳ですから、その現場の先生方と校長先生が推薦した図書ですので、これで承認してよろしいのではないかと思います。

○教育長　ありがとうございます。

ほかはいかがでございましょうか。よろしいですか。

それでは、採決に入らせていただきます。議案第８５号については原案どおり可決することに異議はございませんか。

（異議なし）

○教育長　異議がないようですので、議案第８５号につきましては原案どおり可決することに決定をいたしました。

３　令和３年度区立中学校特別支援学級で使用する教科用図書（一般図書）の採択について

○教育長　次に、議案第８６号「令和３年度区立中学校特別支援学級で使用する教科用図書（一般図書）の採択について」事務局から説明をお願いいたします。

○教育指導担当課長　先程の議案第８５号が小学校で、今回はこの中学校の特別支援学級で使用する教科用図書についてのご審議をいただきたく思います。採択につきましては、先程と同様になります。中学校の特別支援学級設置校長から提案されておりますのが、この資料３になります。これらの一般図書につきましても同様に、使用したい旨の意見が上がってございます。これらにつきましても採択のご審議をお願いしたく思います。よろしくお願いいたします。

○教育長　ありがとうございます。

ただいまの説明について、ご質問、ご意見はございましょうか。

○田谷委員　小学校の場合と同じに、現場の事情、生徒をよく分かっている先生並びに校長先生からの推薦ですので、このまま承認するのがよいのではないかと思っております。

○教育長　ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、採決に入ります。議案第８６号について、原案どおり可決することに異議はございませんか。

（異議なし）

○教育長　異議がないようですので、議案第８６号については原案どおり可決することに決定をいたしました。ありがとうございます。

では続いて、休憩をとらずに申し訳ありませんが、報告事項に入らせていただきます。

日程第２　報告事項

１　令和２年度第２回採用港区奨学性の選考結果について

○教育長　日程第２、報告事項に入ります。「令和２年度第２回採用港区奨学性の選考結果について」説明をお願いします。

○教育長室長　それでは、令和２年５月２０日から６月１９日にかけまして募集を行いました、令和２年度第２回採用の港区奨学生の選考結果についてご報告をさせていただきます。資料につきましては、報告資料ナンバー１となります。

１番の「募集概要」ですが、記載のとおりですので説明は省略させていただきます。

裏面を御覧ください。２番「応募状況」です。今回は高校の在学生を対象とした募集でしたけれども、応募者１名という状況です。

３番「奨学生の決定」ですが、港区奨学資金運営協議会において、７月２１日付で書面会議を行い、協議いただいた結果、この１名を奨学生として採用することに決定いたしました。採用に当たりましては、この方の世帯の収入要件を基準に照らし、それを満たすものということで採決をいただいております。

簡単ですが、ご報告は以上とさせていただきます。

○教育長　ただいまの説明に対して、ご意見、ご質問はございましょうか。

よろしいですか。

２　令和２年度第１回港区教育委員会いじめ問題対策会議の報告について

○教育長　それでは、次に２の報告事項に入らせていただきます。「令和２年度第１回港区教育委員会いじめ問題対策会議の報告について」ご説明をお願いいたします。

○教育指導担当課長　それでは、報告事項の資料ナンバー２を御覧ください。初めに、こちらの本編の資料と、あと本来この会議についていた資料が資料１から資料６までついてございます。では、本編を基にご説明させていただきます。

この港区教育委員会いじめ問題対策会議というのは、年間３回行っている会議でございます。今回はコロナウイルス感染症の拡大防止のため、書面会議で行わせていただきました。１ページの項番１のところに、書面会議、７月２日と書いてございます。

１枚おめくりいただきまして、２ページ。委員が書いてございますその下です。主な議事です。こちらの１から６までという形で、書面会議をもってご意見をいただいたものをこちらの表にまとめてございます。

項番５です、会議の結果及び主な意見の中で、いじめ問題にかかわる現状というところで、６月、１１月、２月と、ふれあい月間というもので、いじめの調査をしていたり、あと年間で何回ぐらいいじめがあって、どう対応したかということをきちんと教育委員会と学校と協力して追ってございまして、そういったことを現状として報告をさせていただいています。

それから、おめくりいただいて３ページの教育委員会事務局の意見のところで様々な意見をいただきまして、四角囲みの中の「・」三つ目で、やはり港区では、加害者も含めて、被害者も含めて、ソーシャルスキルトレーニング等を今もやってございますが、今後もより実施することが求められるのかなというところで書かせていただきました。

３ページの「イ」のところなのですけれども、この会では、いつも本当にあった事例を提出させていただいて、様々な立場の方から、どういうふうに対応していったらよかったか、それでまた、対応によっても、すごくこの対応はよかったねというようなことをみんなで共有をするような形になっております。例えば、しっかり対応はしていたのですが、大学の学識の先生からは、もう少し保護者とかにも説明をした方がよかったのではないかというようなご意見をいただいたり、またちょっとおめくりいただきまして４ページですが、いじめた児童、加害者側への教育ももう少しあってもよかったのかなというような意見もいただきました。

そして、③④というところで、「いじめ防止基本方針の具体的な取組」といって、資料３と３－２と３－３につけてございますが、１年間かけて、重大事態が起きたときとかにどのようにフロー図として学校として対応をしていけばいいかというようなことを色々協議してまいりましたので、教育委員会にも２月にご報告させていただいたかと思いますが、そちらの報告をさせていただいたのと、「学校における取組」というところで、本来、ここも中学校の校長、小学校の校長が代表で参加してございますので、そちらの意見をいただく。今回は、ＳＮＳによるいじめというものがあるというようなことの書面の報告でございます。それから、コロナいじめというのが今後あってはいけないのではないかということも踏まえて、その次の５ページになりますが、感染症に伴う対応についても今後丁寧にやっていく必要があるのではないかということで、報告をいただいています。

簡単でございますが、以上でございます。

○教育長　説明は終わりました。ご質問はございましょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、報告事項２件につきましては、以上とさせていただきます。

「閉会」

○教育長　本日、予定している案件は全て終了しましたけれども、委員の皆様方、または説明員の方から何かございましょうか。

よろしいですか。

なければ、これをもちまして閉会としたいと思います。予定の時間を何分かオーバーして大変恐縮ですけれども、引き続きどうぞよろしくお願いをしたいと思います。

次回は、臨時会ということで８月２４日月曜日午前１０時からの開会を予定してございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は長時間にわたりまして、ありがとうございました。

会議録署名人

港区教育委員会教育長　浦田　幹男

港区教育委員会委員　　中村　博